

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年5月27日

【事業年度】 第13期(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

【会社名】 株式会社ALiNKインターネット

【英訳名】 ALiNK Internet, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役CEO 池田 洋人

【本店の所在の場所】 東京都豊島区東池袋一丁目10番1号

【電話番号】 03-6907-0158

【事務連絡者氏名】 執行役員 田中 一明

【最寄りの連絡場所】 東京都豊島区東池袋一丁目10番1号

【電話番号】 03-6907-0158

【事務連絡者氏名】 執行役員 田中 一明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	2022年2月	2023年2月	2024年2月	2025年2月	2026年2月
売上高 (千円)				888,430	1,015,965
経常利益 又は経常損失( ) (千円)				62,226	63,079
親会社株主に帰属する 当期純利益 又は親会社株主に帰属 する当期純損失( ) (千円)				57,254	272,456
包括利益 (千円)				57,254	272,456
純資産額 (千円)				1,661,145	1,388,689
総資産額 (千円)				1,834,866	1,840,485
1株当たり純資産額 (円)				919.30	768.50
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損 失( ) (円)				31.73	150.79
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)				30.73	
自己資本比率 (%)				90.5	75.4
自己資本利益率 (%)				3.5	17.9
株価収益率 (倍)				31.8	
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)				255,281	157,955
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)				350,467	431,084
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)					300,000
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)				743,377	455,389
従業員数 (人)				35	35

(注) 1. 第12期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載していません。

2. 従業員数は就業人員であります。なお、臨時従業員の総数は、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

3. 第13期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載していません。

4. 第13期の株価収益率については、親会社株主に帰属する当期純損失であるため、記載していません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	2022年2月	2023年2月	2024年2月	2025年2月	2026年2月
売上高 (千円)	649,695	685,491	609,962	741,239	729,574
経常利益 (千円)	215,310	197,879	91,522	136,573	58,251
当期純利益 又は当期純損失( ) (千円)	205,244	140,176	102,603	132,023	347,225
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	138,087	138,087	138,087	138,087	138,087
発行済株式総数 (株)	2,136,900	2,136,900	2,136,900	2,136,900	2,136,900
純資産額 (千円)	1,686,795	1,488,733	1,591,471	1,735,914	1,388,689
総資産額 (千円)	1,805,071	1,561,593	1,669,979	1,880,111	1,782,365
1株当たり純資産額 (円)	789.39	829.46	886.70	960.68	768.50
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	( )	( )	( )	( )	( )
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純 損失( ) (円)	96.42	65.95	57.17	73.16	192.17
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	93.39	64.24	55.17	70.86	
自己資本比率 (%)	93.4	95.3	95.3	92.3	77.9
自己資本利益率 (%)	13.0	8.8	6.7	7.6	22.2
株価収益率 (倍)	10.0	14.5	22.1	13.8	
配当性向 (%)					
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	179,046	185,009	132,166		
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	5,517	2,294	489,665		
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	5,485	338,914	133		
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	1,349,151	1,194,559	838,766		
従業員数 (人)	21	22	22	26	30
株主総利回り (%)	41.6	41.2	54.5	43.5	43.3
(比較指標：配当込み TOPIX) (%)	(103.4)	(112.2)	(154.4)	(158.4)	(238.4)
最高株価 (円)	2,391	1,064	1,755	1,407	1,221
最低株価 (円)	925	891	893	920	921

- (注) 1. 第11期以前の持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
2. 第12期より連結財務諸表を作成しているため、第12期以降の持分法を適用した場合の投資利益、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。
3. 当社は配当を行っておりませんので、1株当たり配当額及び配当性向につきましては、それぞれ記載しておりません。
4. 従業員数は就業人員であります。なお、臨時従業員は雇用しておりません。
5. 最高・最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所マザーズ市場におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所グロース市場におけるものであります。
6. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第10期の期首から適用しており、第10期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
7. 第13期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。
8. 第13期の株価収益率については、当期純損失であるため、記載しておりません。

## 2 【沿革】

当社は、インターネット事業を目的として2013年3月に設立され、主要な事業として天気予報専門サイトである「tenki.jp(てんきじえーピー)」の運営を一般財団法人日本気象協会（以下、「日本気象協会」という。）との共同で行っております。当社設立以降の企業集団に係る経緯は、次のとおりであります。

2013年3月	株式会社ALiNKインターネットを東京都渋谷区に設立。
2013年4月	日本気象協会と業務提携契約を締結。
2015年7月	本社を東京都新宿区へ移転。
2015年9月	天気予報専門メディア「tenki.jp」のAndroid版アプリをリリース。
2017年4月	iOS、Android版の課金アプリ「tenki.jp 登山天気」をリリース。
2018年1月	アドネットワーク事業を行う株式会社アトモスを吸収合併。
2019年12月	東京証券取引所マザーズに株式を上場。
2022年8月	本社を東京都豊島区へ移転。
2024年2月	ダイナミックプライシング事業の開始に先立つ実証実験として、レンタルスペース事業の事業譲受契約を締結。
2024年5月	IPプロデュース事業を行う株式会社エンバウンドを子会社化。

(注) 2022年4月4日に東京証券取引所の市場区分の見直しにマザーズよりグロース市場へ移行しております。

当社主要事業であるtenki.jp事業に係る経緯は次のとおりであります。なお、当社創業者は当社設立以前から日本気象協会と「tenki.jp」を運営しております。

1997年9月	日本気象協会が中心となって公益事業であるWebサイト「防災気象情報サービス」(現在の「tenki.jp」の原形)を開始。
2002年6月	「防災気象情報サービス」を「tenki.jp」としてリニューアル。公益事業から収益事業に転換。
2005年4月	現当社代表取締役CEOの池田洋人が取締役を務める株式会社ありんくが、日本気象協会と営業支援契約を締結。
2008年4月	株式会社ありんくが、日本気象協会と業務委託契約を締結。営業支援に加えて、「tenki.jp」に係る事業計画の作成、サイトの企画設計等への関与を開始。
2008年9月	株式会社ありんくと日本気象協会で、「tenki.jp」の大幅リニューアルを実施。
2009年6月	Twitter(現:X)の公式アカウント「@tenki.jp」を開設。Twitter(現:X)において天気関係の情報発信を開始。
2011年4月	Facebookの公式アカウントを開設。
2011年5月	iOS版アプリをリリース。
2011年10月	株式会社ありんくが、日本気象協会と業務提携契約を締結。現在の共同事業の形態での「tenki.jp」の運営を開始。
2013年3月	日本気象協会との業務提携契約で定められた、株式会社ありんくが保有する一切の権利義務を、当社へ譲渡。

### 3 【事業の内容】

当社グループは、「未来の予定を晴れにする」を経営理念に掲げ、気象情報と社会をつなぐ多角的な事業を展開しております。

各事業の概要は次のとおりです。

(tenki.jp事業)

一般財団法人日本気象協会との共同事業として天気予報専門メディア「tenki.jp」を運営し、気象情報の社会インフラ化を推進しております。「tenki.jp」の運営を通じて蓄積したメディア運営およびマネタイズのノウハウをもとに、AIやビッグデータ技術を活用した「天気3.0」の実現に向けて、気象情報と現実社会を結びつけた新たな価値創造に取り組んでおります。特に気象条件がライフスタイルに与える影響に着目し、これらを連携させたサービス開発を進めております。

当該事業セグメントにおいては、天気予報専門メディア「tenki.jp」、「tenki.jp 登山天気」の運営を行っております。

#### (1) 運営メディアについて

「tenki.jp」は、生活にかかせない天気予報と、気象予報士が日替わりで季節の話題を提供する等のコンテンツに加え、観測データ、地震・津波等の防災情報の提供を行い、気象情報を多種多様な形態で提供しております。PCのWebページ、スマートフォンアプリ、スマートフォンサイトを合わせて年間53億PV(注1)(2026年2月期実績)、X(旧:Twitter)のフォロワー数が4.5百万人(2026年2月末時点。tenki.jp地震情報を含む)に達する天気予報専門メディアです。

注1:「PV(ページビュー)」とは、ウェブサイト内の特定のページが開かれた回数を表し、ウェブサイトがどのくらい閲覧されているかを測るための一般的な指標です。

< tenki.jpのページ >



< tenki.jp及びtenki.jp 登山天気のロゴマーク >

(tenki.jp)

(tenki.jp 登山天気)



#### 運営メディアの提供情報

・「tenki.jp」

2週間天気や1時間ごとの天気、今いる場所の雨の様子(雨雲レーダー)等、ユーザーの志向やユーザーが必要な場所・時間に合わせた天気予報を無料で提供しております。天気予報だけでなく、一般的な気象情報として、観測データや天気図、防災情報もリアルタイムで提供しております。

また、ユーザーの未来の行動の判断材料を提供するために、気象予報士のポイント解説(日直予報士)や洗濯指数、お出かけ指数等の指数情報、天候と関係のある主要レジャーの天気情報を提供するレジャー天気、花粉飛散情報、紅葉見ごろ情報等の季節に応じた季節情報等の各ユーザーの志向に応じた多種多様な情報を提供しております。

なお、スマートフォン用天気予報アプリ「tenki.jp」では、現在地への雨雲の接近をリアルタイムに通知する機能や広告を非表示にする定期購読サービス「tenki.jpライト」も実施しております。

・「tenki.jp 登山天気」

登山準備に使用できる指数情報や山々の山頂・登山口・ふもと別の天気、雨雲の動き・雷危険度・台風情報等のリアルタイム情報をチェックできます。なお、日本の三百名山全てを網羅しております。

#### マネタイズ方法

当社運営メディアである「tenki.jp」の主な収益は各ページに掲載される広告収入となります。アドネットワークを駆使した運用型広告の収入と枠売りやタイアップ広告等の純広告の収入が大半を占めますが、2026年2月期の実績では運用型広告の収入がtenki.jp事業の売上高全体の80%以上を占めております。

当社は、収益の拡大を図るべく、日々アドネットワーク業者とやり取りを重ね、自社で広告運用を担っております。当該業界は日進月歩で最新のテクノロジーが開発されていますが、当社は常に最先端のアドテクノロジーを追い求め、既存の業者だけでなく、海外の新興系のプロダクトも活用して0.01円単位の広告チューニング(注2)を行い、最適な運用を行うよう心掛けております。

また、広告単価や広告配信比率を「気象データ」を加味した独自のアルゴリズムで運用できる体制を構築し、天候変化に連動して広告を調整すること(以下、「天気マッチング広告」という。)で収益性の向上を目指しております。

注2:「広告チューニング」とは、広告の効果を最適化することを指します。例えば、入札制を採用している広告では、入札金額の高い広告を上位表示し、入札単価の低い広告を下位表示します。

#### (2) 日本気象協会との共同運営について

当社は設立以来、気象情報等をメディア上で提供し、メディア運営ノウハウ及びメディアマネタイズノウハウを蓄積しながら、気象業界に関連したインターネット事業を営んでまいりました。一方で、気象予報士を抱え、予報業務をリアルタイムで行うだけのリソースは保有しておりませんでしたので、気象予報士を300名以上抱え、予報業務や気象に係るコンテンツの制作・設計に長けている日本気象協会と互いのリソースを活かした共同事業(天気予報専門メディアの運営)を行うことで、現在の当社の経営理念を達成することを意図しております。

『「tenki.jp」の運営に関する業務提携契約書』に基づき、当該事業の事業方針及び事業計画は、両者の協議によって合意・決定しておりますが、当該事業における両者の主な役割については、以下のとおりとなっております。なお、契約の詳細は「第2 事業の状況 5 重要な契約等」に記載しております。

項目	分担
サイト、アプリの企画制作・設計	主担当：当社、副担当：日本気象協会
「tenki.jp」は天気予報専門メディアとしてWebサイト・アプリ上で気象情報等(データ元は日本気象協会)を提供しております。気象情報等は広く一般ユーザーが目にする情報であり、どのメディアも基本的に気象庁のデータを一次情報として使用している(特に防災情報は一次情報を変更せず使用する必要があります)ため、同業他社との差別化のためにはユーザー目線に立ったWebサイト・アプリ設計が重要となります。当社は当該役割を担い、日々、ユーザー目線に立ったWebサイト、アプリ上での企画立案や課題への対応を行っております。	
気象コンテンツの企画制作・設計	主担当：日本気象協会、副担当：当社
「tenki.jp」に掲載される気象関係のコンテンツについて、日本気象協会は日々、予報業務等を行い、気象に係るデータを制作しております。Webサイト、アプリ上での新たな企画案(指数情報やレジャー天気等)が発案された場合は、その実現可能性を調査、考察します。実現可能性があるかと判断された場合はデータ設計を行います。	

項目	分担
各種データの提供	主担当：日本気象協会
日々の予報業務を通じて制作される天気予報等の各種データ提供は日本気象協会が行っております。なお、各種データには、他の業者等から購入した情報も含まれております。	
システムの運用保守管理、システム設計・開発	主担当：当社
日本気象協会から提供された気象情報等の各種データをWebサイト・アプリ上に提供するためのシステム設計・開発や当該システムの運用保守管理は当社が一括して担っております。	
運用型広告業務(トレーディングデスク業務)	主担当：当社
収入の大半を占める運用型広告に関する業務は当社が担っております。日々の広告チューニングやアドネットワーク業者選定、アドテクノロジーの導入可否の検討等、「tenki.jp」のサービス特性を勘案した最適な広告運用を行い、収益の最大化に取り組んでおります。	
広告商品企画	主担当：当社、副担当：日本気象協会
<p>広告商品の企画については、Webサイト、アプリに表示される広告枠の調整やユーザー目線のUI、UXへの影響や、システムを活用して売買するプログラマティック広告及び代理店を通じて売買する天気マッチング広告(注3)等、システムや運用型広告の販売に直結するため、基本的には当社が担っております。一方で、広告商品の企画として気象コンテンツとの連携のために当社だけでなく、日本気象協会も一部関与しております。</p> <p>注3：「天気マッチング広告」とは、天気と連動したWeb広告配信サービスを指します。市区町村単位(全国約2,000カ所)に個別ページが存在する[tenki.jp]において、「雨が降っているエリア」等、広告主が指定した天気条件にマッチングし、一般広告よりも優先的に広告を掲載することが可能になります。</p>	
業務に必要な契約手続き等	主担当：日本気象協会
契約の内容確認等は両者で担いますが、業務に必要な契約の手続きは日本気象協会に対応しております。また、日々のWebサイト・アプリへの問い合わせ対応は日本気象協会に対応しており、特殊な対応が必要な場合は両者協議の上、対応を検討することとしております。	
市場調査及び分析	主担当：当社・日本気象協会
<p>日々の「tenki.jp」のユーザー行動をアクセスログの分析等を通じて、中長期的なスパンにおける「tenki.jp」ユーザーのデモグラフィック(注4)や、「tenki.jp」を取り巻く市場環境の調査分析等を実施しております。当該業務は「tenki.jp」全般に関わることから両者で担当しております。</p> <p>注4：「デモグラフィック」とは、性別、年齢、居住地域、所得、職業、家族構成等人口統計学的な属性の総称のことであり、これらの属性をもとに市場を分類し、マーケティングのターゲットを明確にするための指標となります。</p>	
Growth Hack(マーケティング)	主担当：当社
サイト利便性の向上のため、ユーザー行動データや市場動向等を分析し、仮説検証・施策実行を行い、PV向上につなげるためのPDCAサイクルを回しております。当社専門部署で日々、対応を重ねております。	
ブランディングやプロモーションの企画、実施	主担当：当社・日本気象協会
広告媒体やイベントでの「tenki.jp」のブランディングやプロモーションを両者で協議して進めております。	

主担当：当該当事者がその裁量により役割を全うする。

副担当：当該当事者は他の当事者と必要に応じて協議し、一部役割を担う。

双方が主担当とする役割については、双方協議により合意・決定し、実施するものとする。

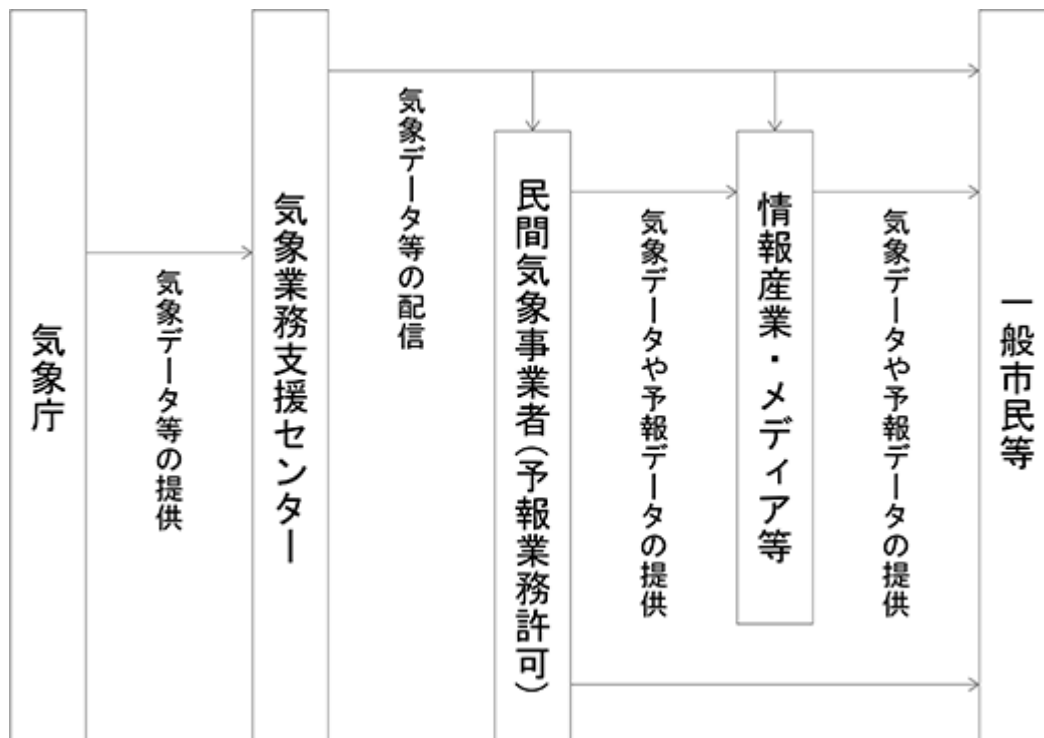
### 当社と共同事業を行う日本気象協会の概要

日本気象協会は、「安全・安心・快適な社会づくり」のために、気象・環境・防災・情報サービスを通じて社会に貢献する使命を担い、1950年に財団法人日本気象協会として設立されております。日本における気象会社として、日本で初めて気象情報をオンライン提供する等、気象業務法に基づいた気象データの提供を気象業界の創生期より継続的に行っております。2009年より一般財団法人へ移行し、民間の気象会社として、現在は、気象・環境・防災等に関わる調査解析や気象に関わるリアルタイムの情報提供等、気象コンサルティングのプロフェッショナルファームとして活動しております。

日本気象協会の基本情報	
名称	一般財団法人日本気象協会(Japan Weather Association)
代表者名	会長 武藤 浩
設立	1950年5月10日(2009年10月より一般財団法人へ移行)
従業員数	879名(2025年7月1日現在)
主要な事業区分	防災ソリューション事業 環境・エネルギー事業 メディア・コンシューマ事業(tenki.jp事業等)

### 気象産業の構造

気象データ等は気象庁から一般財団法人気象業務支援センターを通して、民間気象事業者へ気象データ等が配信されております。民間気象事業者は気象庁から提供された気象データ等を天気予報等に活用しておりますが、気象庁以外の事業者が天気や波浪等の予報業務を独自に行う場合は、気象庁から予報業務許可を受ける必要があります。下記は、一般的な情報の流れを図示したものになります。なお、「tenki.jp」に掲載する予報業務が必要な情報については、日本気象協会が制作・提供しているため、当社は予報業務許可を受ける必要がありません。なお、日本気象協会は下図の民間気象事業者に該当します。



( IPプロデュース事業 )

2024年5月に株式会社エンバウンドを子会社化し、第12期よりIPプロデュース事業を開始いたしました。本事業においては、同社が手掛ける地域活性化プロジェクト「温泉むすめ」のコンテンツプロデュースを通じて、全国の温泉地の魅力を発信していくとともに、温泉地でしか購入できない「温泉むすめ」のグッズ販売等による人流の創出と消費の活性化を図ることで、地域創生に貢献しております。

( 太陽光コンサルティング事業 )

本事業における収益は、太陽光発電設備のセカンダリー市場において、一時的に太陽光発電設備を保有することにより得られる売電収入（売上高）とエンドユーザーに売却されたことにより仲介事業者より得られるスポンサー料（受取利息（営業外収益））により構成されております。

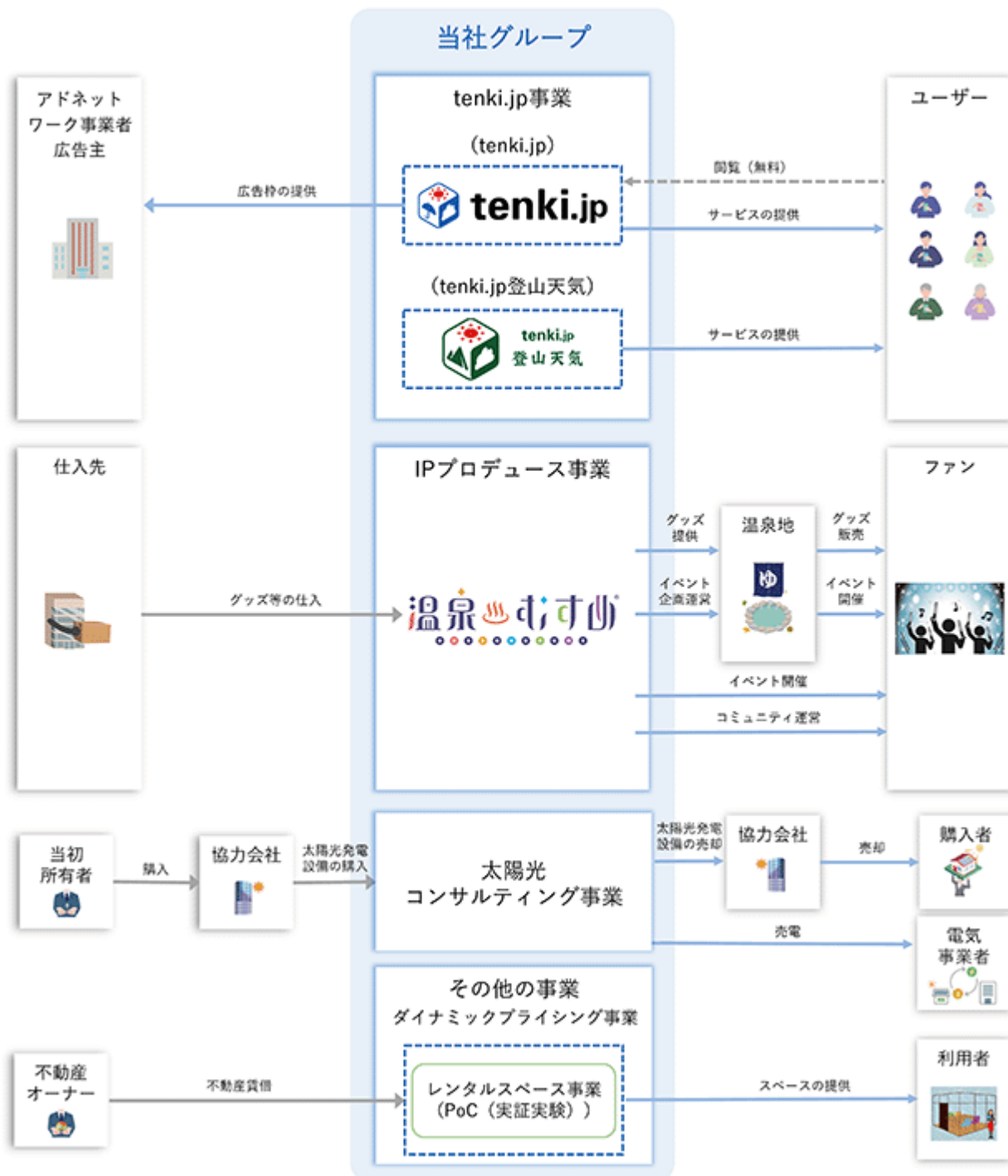
( その他の事業 )

事業領域の拡大のために新規事業への参入を企図し、ダイナミックプライシング事業を展開しております。

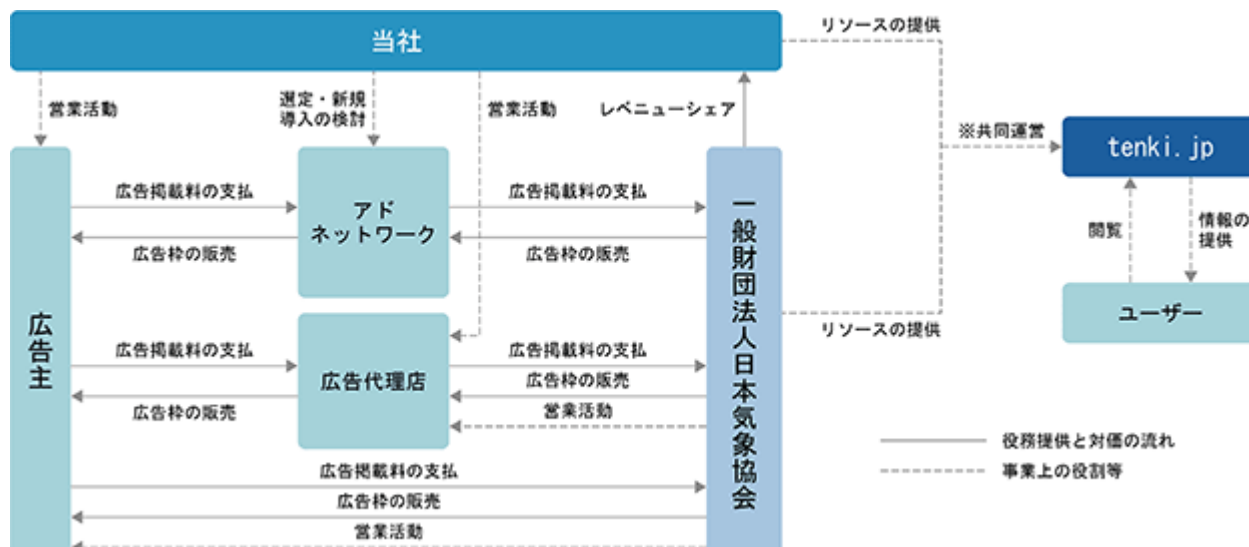
ダイナミックプライシング事業は、市況、個人の嗜好、人流データ、立地・地理情報、気象データ（天気・気温等）等のデータを組み合わせることで、最適な価格を算出するダイナミックプライシングの技術を基盤とした事業となります。新たな事業として、当該事業に先立ち事業譲受により取得したレンタルスペース事業をPoC（実証実験）として運営しております。

## 〔事業系統図〕

当社グループの事業系統図は、以下のとおりであります。



また、当社グループの事業利益の中心がtenki.jp事業であることから、下記はtenki.jp事業に係る詳細な事業系統図を示しております。実線は役務提供と対価の流れ、点線は事業上の役割等を示しております。



tenki.jp事業は業務提携契約書に基づき、互いのリソースを提供し、共同事業を行っております。収入について、「主要な契約手続き」を日本気象協会が担っていることから、広告収入は一旦、日本気象協会に入金され、当社は定められたレベニューシェア(注5)の割合に応じて日本気象協会から配分されております。

注5：「レベニューシェア」とは、パートナーと提携し、相互の協力で生み出した事業収益をあらかじめ決めておいた配分率で分配することを指します。

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社エンバウンド	東京都豊島区	30,000	IPプロデュース事業	100.0	役員の兼任 1名 資金の貸付

(注) 1. 「主要な事業の内容」の欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 特定子会社であります。

3. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4. 債務超過会社であり、債務超過の額は2026年2月28日時点で98,181千円です。

5. 売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えておりますが、セグメント情報のうち、IPプロデュース事業の売上高に占める当該連結子会社の売上高(セグメント間の内部売上高又は振替高を含む)の割合が90%を超えているため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

## 5 【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

2026年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
tenki.jp事業	20
IPプロデュース事業	5
太陽光コンサルティング事業	
その他の事業	3
全社(共通)	7
合計	35

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。なお、臨時従業員の総数は、従業員数の100分の10未満であるため記載を省略しております。

2. 全社(共通)は、総務および経理等の管理部門の従業員であります。

## (2) 提出会社の状況

2026年2月28日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
30	41.2	2.8	6,150

セグメントの名称	従業員数(人)
tenki.jp事業	20
太陽光コンサルティング事業	
その他の事業	3
全社(共通)	7
合計	30

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。なお、臨時従業員は雇用しておりません。

2. 平均年間給与は、基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)は、総務および経理等の管理部門の従業員であります。

## (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておませんが、労使関係は安定しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営方針

当社グループは、「未来の予定を晴れにする」を経営理念として、天気予報専門メディア「tenki.jp」を一般財団法人日本気象協会との共同事業として運営しているほか、新規事業の開発に積極的に取り組んでおります。AIやビッグデータ等の技術革新を背景に、気象情報と現実社会を結びつけた新たな価値を提供する「天気3.0」へ向け、事業拡大を図り、競争優位性を創出することで持続的な成長を目指しております。

#### (2) 経営戦略等

当社グループは、これまで「tenki.jp」運用に伴うインターネット広告分野に軸足を置き、気象に関する情報を収集・分析・蓄積し、テクノロジーを活用することで付加価値を生み、「未来の予定を晴れにする」という経営理念を実現してまいりました。

主たる事業であるtenki.jp事業においては、引き続きアドネットワーク広告関連市場に積極的な投資を行い、「tenki.jp」の競争力強化と市場からの認知・評価の獲得に努めてまいります。特にアドネットワークは日進月歩の高度な技術であります。当社グループには本分野の知見を有する者が所属しており、自社の強みを活かした経営資源の投入を継続してまいります。

また、当社グループは気象産業における法令の改正等を含めた過去の経緯、技術革新による状況を「天気1.0時代」「天気2.0時代」「天気3.0時代」の3つの時代に分けて捉えており、以下は当社グループが考えるそれぞれの時代の定義を記載しております。

##### <天気1.0時代>

限られた気象業務法の許可事業者が新聞・テレビをはじめとしたマスメディア、公共機関及び事業会社へ気象予報等の気象情報をBtoBで提供していた時代。

##### <天気2.0時代>

気象業務法の改正(1993年)及びインターネットの発展(1990年代後半から2000年代)によって民間事業会社でも気象情報を一般消費者へ、直接、提供することが可能(BtoC)となった時代。

##### <天気3.0時代>

IoT(Internet of Things)、人工知能(AI)及びビッグデータ解析等の技術革新を背景とした気象情報のリアルタイム解析等に伴う、気象情報と現実社会を結びつけて新たな価値を産業や社会へ提供することが可能となる時代。

当社グループは天気2.0時代において「tenki.jp」の発展を通じた事業拡大を行ってまいりました。今後到来すると当社が考える天気3.0時代においては、内閣府の提唱するSociety5.0(注1)に沿って、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会の構築を担う事業会社が一般消費者から支持を受け、事業拡大を達成できるものと考えております。

このような認識のもと、当社グループは以下の事業を展開し、持続的な成長を目指します。

tenki.jp事業においては、一般財団法人日本気象協会との共同事業として天気予報専門メディア「tenki.jp」の運営を通じて気象情報の社会インフラ化を推進し、メディアとしての価値をさらに高めるべく継続して経営資源を投下してまいります。また、「tenki.jp」の運営を通じて蓄積したメディア運営およびマネタイズのノウハウに加え、AIやビッグデータ技術を活用した「天気3.0」の実現に向けて、特に気象条件がライフスタイルに与える影響に着目し、これらを連携させた革新的なサービス開発に取り組んでまいります。

IPプロデュース事業では、地域活性化プロジェクト「温泉むすめ」のコンテンツプロデュースを通じて全国の温泉地との強固なネットワークを構築し、地域経済とユーザーを結ぶハブ機能という独自の優位性を発揮することで、地域創生への貢献と事業拡大を通じて、地域の「未来の予定を晴れにする」ことを目指します。

さらに、事業領域の拡大のために太陽光コンサルティング事業およびダイナミックプライシング事業を展開しております。太陽光コンサルティング事業では、太陽光発電施設の保有・運営による安定的な売電収入の確保を図るとともに、ダイナミックプライシング事業では、気象データを含む多様なデータを統合分析し、最適価格を算出する技術開発に取り組んでおります。

これらの事業展開を通じて、気象情報と現実社会を結びつけた新たな価値を提供する企業としての地位を確立し、競争優位性を創出することで持続的な成長を目指します。

注1：「Society5.0」とは、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)を指します。(内閣府HPより)

### (3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、より高い成長性及び収益性を確保する視点から、売上高成長率及び売上高営業利益率を重要な経営指標と捉えております。また、主要事業であるtenki.jp事業の売上高のKPIである「tenki.jp」のPV数についても重要な指標と位置付けております。

### (4) 経営環境

2025年の広告費を媒体別にみると、日本のインターネット広告費は、4兆459億円(前年比110.8%)となり、前年より3,942億円増加しております(出典：株式会社電通「2025年日本の広告費 インターネット広告費」)。そのうち運用型広告は前年比112.5%の2兆9,352億円(出典：株式会社電通「2025年日本の広告費 インターネット広告媒体費 詳細分析」)となっており、市場規模及び成長率ともに当社グループにとって好環境が継続しております。

### (5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社グループは、生活接点から行動変容データを蓄積し、外出行動に関わる体験価値を創出する「生活接点データ企業」へ向けて、事業拡大を図り、競争優位性を確保することで持続的な成長を目指しております。

この目的を実現させるため、当社グループは以下の事項を重要な課題と認識し、その対応に引き続き取り組んでまいります。

#### 「tenki.jp」の認知度向上

当社グループは、tenki.jp事業を主たる事業としており、継続的に成長させていくことが重要であると認識しております。そのためには、当該サービスの認知度を向上させ、継続的に利用するユーザー数を増加させていくことが必要不可欠であります。引き続き、マーケティングや広報活動を強化・推進するとともに、「tenki.jp」の新しい機能やサービスの追加開発を促進してまいります。

#### 技術革新への対応

インターネット業界においては、AI技術の急速な進展により、市場環境が大きく変化しております。AIの進展は、開発環境の高度化や業務効率の向上といった機会をもたらす一方で、検索結果におけるAIの活用拡大により、ユーザーの情報取得行動が変化し、Webサイトへの流入に影響が生じているものと認識しております。

このような環境変化に対応するため、当社グループは新たな技術動向を的確に把握し、AIをはじめとする技術の積極的な活用を推進するとともに、ユーザーに選ばれるサービス価値の向上に取り組んでまいります。

一方で、IPプロデュース事業におけるコンテンツ制作においては、コンテンツの価値毀損を防ぐ観点から、生成AIの活用については慎重に検討してまいります。

また、事業基盤の安定的な運営の観点から、当社グループにおいては、システムのセキュリティ管理体制の構築が重要であり、市場環境の変化に対応したセキュリティ体制の維持・強化に取り組んでまいります。

#### 新たな事業の展開

当社グループは、基幹事業であるtenki.jp事業を伸張させるとともに、中長期的な企業価値の向上に向けて、新たな収益の柱となる事業の創出が重要であると認識しております。

そのため、気象データや生活接点データを活用した新規事業の開発を推進してまいります。

また、すでに開始しているIPプロデュース事業においては、コンテンツ価値の向上及び事業領域の拡張を図り、収益基盤の強化に取り組んでまいります。

#### 業務提携やM & Aの推進

当社グループは、「tenki.jp」事業の発展に加え、新たな収益機会の獲得及び事業領域を拡張することは、重要な課題であると考えております。

また、2024年5月に連結子会社化した(株)エンバウンドと事業価値を引き続き構築するとともに、引き続き、他企業との業務提携やM & Aを積極的に推進することで、非連続な成長を目指してまいります。

#### 人材確保及び組織体制の整備

当社グループの継続的な成長には、事業拡大に応じて多様なバックグラウンドと専門性を持った優秀な人材を採用し、組織体制を整備していくことが重要であると認識しております。

そのため、積極的な採用を推進していく一方で、中長期にわたり活躍できる環境作りに取り組むとともに、組織力の強化に取り組んでまいります。

#### 内部管理体制の強化

当社グループは、今後、更なる成長を実現するためには、事業規模拡大に応じた内部管理体制の強化が必要と認識しております。

そのため、事業規模に合わせバックオフィス機能を拡充していくとともに、経営の公正性・透明性を確保するための内部統制及びコンプライアンスの強化に取り組んでまいります。

## 2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組みは、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) ガバナンス

当社グループは、企業の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上の観点から、サステナビリティを巡る課題への対応は経営の重要課題と認識しておりますが、現状、サステナビリティに係る基本方針を定めておりません。

また、当社グループにおいて、サステナビリティ関連のリスク及び機会を監視し、管理するためのガバナンスに関しては、コーポレート・ガバナンス体制と同様となります。当社グループのコーポレート・ガバナンスの状況の詳細は、「第4 提出会社の状況 4 . コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要」に記載のとおりであります。

### (2) 戦略

当社グループの持続的な成長や中長期的な企業価値向上のためには、人材は最も重要な経営資源であり、高度な専門的知識、技能及び経験を有する多様な人材の確保及び育成が不可欠だと考えております。そのため、フレックスタイム制度やテレワーク勤務の導入などにより柔軟な働き方を可能とするとともに、挑戦する人を応援し、信頼し合える職場環境を大切に作る組織風土を作り、中長期的な人材育成に努めております。

### (3) リスク管理

当社グループは、サステナビリティ関連のリスクを、その他の経営上のリスクと一体的に監視及び管理しております。詳細は、「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要 企業統治に関するその他の事項 b . リスク管理体制の整備状況」に記載のとおりであります。

### (4) 指標及び目標

当社グループでは、サステナビリティに関する基本方針を定めておりません。そのため、人材の育成に関する方針及び社内環境整備に関する方針に関する定量的な指標や目標は設定しておりませんが、指標や目標の設定要否及びその内容につきましては今後必要に応じて検討・協議してまいります。

## 3 【事業等のリスク】

本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に影響を及ぼす可能性のある事項は、以下のようなものがあります。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項につきましても、投資者の投資判断上、重要であると考えられる事項につきましては、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避、発生した場合の対応に努める方針であります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであり、将来において発生の可能性のある全てのリスクを網羅したものではありません。

### (1) 一般財団法人日本気象協会について

「tenki.jp」は、当社と日本気象協会との間で『「tenki.jp」の運営に関する業務提携契約書』（以下、本契約書という。）を締結の上、「第1 企業の概況 3 事業の内容」に記載のとおり、両者の役割分担を定め、一体化した事業運営を行っているサービスであります。「第2 事業の状況 5 重要な契約等」に記載のとおり、契約期間は契約締結日より3年間としており(以後1年間の自動更新)、本契約書でtenki.jp事業に関する売上高のレベニューシェア率(当社：日本気象協会 = 49.5 : 50.5)を定めております。

#### 本契約書の解消に関するリスク

現時点において、当社と日本気象協会との関係は良好であり、tenki.jp事業の継続性に関し、懸念される事項はありません。しかしながら、当社または日本気象協会が、本契約を終了させようとする場合には、契約期間満了の1年前までに相手方へ通知し、両者の協議によって対応を定めることとしているため、協議の結果によっては本契約を解消することが可能となります。

本契約書において著作権の取扱いは以下と定めております。

・Webサイト、アプリを生成するプログラム及びシステム等(UI、UX(注1)等を含む。)の著作権は当社に帰属す

るものとする。

注1：「UI、UX」とは、UI(ユーザーインターフェース)はユーザーの目に触れる部分を指し、UX(ユーザーエクスペリエンス)はユーザーがサービスを通じて得られる体験を指します。

- ・日本気象協会の提供する気象情報及びこれに関連するコンテンツ等に係る著作権は日本気象協会に帰属するものとする。

また、上記の著作権以外の共有物及び権利については、レベニューシェア率に応じた割合で共有するものとし、共同事業開始後に登録した商標(「tenki.jp」のロゴマーク)等については別途共有割合を定めるものとしております。

日本気象協会との関係性に疑義が生じ、日本気象協会が当社ではない他のインターネットメディア運営会社と天気予報専門メディアを運営すると意思決定する等、当該契約が解除された場合、上述の権利関係の定めにより、当社及び日本気象協会は契約期間満了時点を持って、現行の「tenki.jp」及び「tenki.jp 登山天気」のWebサイト、アプリを継続できないこととなり、当社は現在のtenki.jp事業の収入はなくなることとなります。

本契約書が解除されることとなった場合、当社は、本契約書の定めにより、「tenki.jp」及び「tenki.jp 登山天気」のWebサイト、アプリを生成するプログラム及びシステム等(UI、UX等を含む。)の著作権を保有しているため、契約期間満了までに気象情報に関するデータや指数情報等をはじめとした独自の気象・予報データを気象業務支援センターや日本気象協会ではない他の民間気象事業者から取得し、現在運用しているシステムをもとに別の天気予報専門メディアを開設する方針です。気象庁が情報開示の観点で観測データ等を無料で開放していることや、予報業務許可を受けている民間気象事業者は複数社存在するため、その中から気象情報に関するデータ等については、代替先を見つける方針です。また、「tenki.jp」の収入の大半を占める運用型広告に関しては、当社が過去から担っており、ノウハウは当社にのみ蓄積されていることを踏まえ、そのノウハウを用いて別の天気予報専門メディアのマネタイズを行う方針です。しかしながら、「tenki.jp」の名称は日本気象協会が保有しており、「tenki.jp」という名称が使用できなくなるため、当該メディアの認知度向上のために改めてマーケティング施策の検討や実行を行い、当該マーケティング施策の効果が現れるまでに時間を要することが想定されます。

上述のため、日本気象協会との関係性が悪化した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

#### 本契約書の内容変更に関するリスク

事業環境の変化等によって、日本気象協会との間で協議の上、本契約書の内容変更を行うことが考えられます。当該契約内容変更に伴い、当社の役割や日本気象協会の役割が変更された場合は、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、レベニューシェア率の変更に関する議論を行う場合が考えられます。過去においては当社の業務負担を考慮してレベニューシェア率は徐々に上昇しておりますが、レベニューシェア率の定めが変更された場合は、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### その他、共同事業に関するリスク

##### <与信に関するリスク>

本契約書の定めにより、「tenki.jp」の売上高(広告収入)は、一旦日本気象協会に入金された後、定められたレベニューシェアの割合に応じて日本気象協会から当社へ配分されております。現時点までに日本気象協会からの売上高の配分に係る支払が滞ったことはありませんが、今後、日本気象協会の経営状態の悪化等により、日本気象協会から当社への支払いが遅延する、もしくは支払いが困難となる場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### <予報業務許可に関するリスク>

本契約書の定めにより、「tenki.jp」における各種データの提供は日本気象協会が担っております。気象庁以外の事業者が天気や波浪等の予報の業務を行おうとする場合、気象庁から気象業務法に基づく予報業務許可を受ける必要があり、日本気象協会は当該許可を受けた予報業務の許可事業者であります。日本気象協会は、法令を遵守した運営を行っており、また、過去において予報業務許可が取消しとなる事象は発生していませんが、今後、何らかの理由により、予報業務許可が取り消された場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### <意思決定に及ぼす影響に関するリスク>

当社と日本気象協会は、本契約書で定められた役割分担に則って、共同事業を行っております。日本気象協会は、当社の発行済株式20,400株(所有割合0.95%)を保有しておりますが、役員の招聘、出向者の受入等の人的交流は行っておらず、当社が保有しているシステム、技術及びノウハウ等の関与もなく、また、借入金等の当社事

業運営上の資金的関係もございません。当社は日本気象協会との共同事業であるtenki.jp事業が売上高の過半を占めております。現時点では関係も良好であり、当該事業の事業方針及び事業計画は、両者の協議によって合意・決定しており、また、tenki.jp事業の日常業務について本契約書で定められた役割分担に則って業務を行っております。今後、万が一、日本気象協会との関係性に何らかの変化があった場合や、当社と日本気象協会の事業方針等に相違が発生した場合は、事業方針及び事業計画の策定にあたり、意見の齟齬が発生する可能性や、当社の日常業務に支障が発生する可能性があります。その場合、当社グループは売上の大半をtenki.jp事業が占めておりますので、当社グループの意思決定にも影響を及ぼし、その結果として当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 当社と共同事業を行う日本気象協会の概要

日本気象協会は、「安全・安心・快適な社会づくり」のために、気象・環境・防災・情報サービスを通じて社会に貢献する使命を担い、1950年に財団法人日本気象協会として設立しております。日本における気象会社として、日本で初めて気象情報をオンライン提供する等、気象業務法に基づいた気象データの提供を気象業界の創生期より継続的に行っております。2009年より一般財団法人へ移行し、民間の気象会社として、現在は、気象・環境・防災等に関わる調査解析や気象に関わるリアルタイムの情報提供等、気象コンサルティングのプロフェッショナルファームとして活動しております。

日本気象協会の基本情報	
名称	一般財団法人日本気象協会(Japan Weather Association)
代表者名	会長 武藤 浩
設立	1950年5月10日(2009年10月より一般財団法人へ移行)
従業員数	879名(2025年7月1日現在)
主要な事業区分	防災ソリューション事業 環境・エネルギー事業 メディア・コンシューマ事業(tenki.jp事業等)

#### (2) 気象状況が経営成績に与える影響について

当社グループの主力事業であるtenki.jp事業においては、異常気象や台風等の予測できない気象状況の変化が発生した際には、PV数が大幅に増加する傾向があります。したがって、予測できない気象状況の発生状況によっては、PV数の大幅な増減等により、tenki.jp事業の広告収入が増加又は減少し、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (3) インターネット広告市場について

インターネット広告市場は、スマートフォンの普及・利用拡大等を背景に、データ連携可能な運用型広告やスマートフォン向け広告等へのニーズが引き続き高まっております。わが国の2025年の総広告費、8兆623億円(前年度比105.1%)のうち、「インターネット広告費」は、全体の50.2%、4兆459億円(前年比110.8%)を占めております。そこから「インターネット広告制作費」を除いた「インターネット広告媒体費」は、3兆3,093億円(前年比111.8%)(出典：株式会社電通「2025年日本の広告費」)となっております。

このようにインターネット広告市場は拡大傾向で推移しておりますが、インターネット広告市場の環境整備や新たな法的規制の導入等、何らかの要因によってインターネット広告市場の発展が阻害される場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また当社グループは、広告のトレーディングデスクに注力してtenki.jp事業のマナイズを展開しておりますが、インターネット広告市場においては、広告配信手法や販売メニューが多様化し、競争が激化する傾向にあります。一方で、広告配信技術や検索行動の変化、新たな広告媒体の台頭等により、PV数の減少や広告単価が下落した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (4) インターネット業界におけるユーザーニーズの変化について

インターネット業界においては、急速な技術革新が進んでおり、これに合わせるようにユーザーのニーズも著しく変化しております。そのような状況下で、これまで当社グループは、サイト本体のサービス拡充にとどまらず、スマホWebやアプリの対応、X(旧：Twitter)やFacebookといったSNSアカウントの開設運用、キュレーションメ

ディア向けの情報配信等、市場トレンドやユーザーニーズをいち早く取り入れて事業を展開してまいりました。しかしながら、今後、予期しない技術革新等があった場合、その技術革新に対応できるスキルを有した技術者の確保が想定どおりに進まない場合、もしくはユーザーのニーズの把握が困難となり、十分な機能拡充が提供できない場合、ユーザーに対する訴求力が弱まり、メディアとしての価値が相対的に低下し、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 競合サービスについて

当社グループは、インターネット市場の中の、気象や生活情報を用いたBtoC向けメディアを主たる事業領域としておりますが、昨今、気象情報を用いたソリューションやビッグデータ解析は世界的に注目されており、参入企業が増加する傾向にあります。天気予報専門サイトという特殊な分野ではあるものの、今後当社グループサービスが十分な差別化や機能向上等ができなかった場合や、さらなる新規参入により競争が激化した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 広告テクノロジー業界における技術革新について

当社グループは、広告のトレーディングデスクを中心にtenki.jp事業を展開しております。このため、新しい技術習得に対し、人的・資本的投資を継続してまいりますが、新たな技術やサービスへの対応が遅れた場合や、競合する他社において革新的な技術が開発された場合、当社グループの競争力が低下する要因となり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) プラットフォーム事業者の規制について

当社グループが共同運営している「tenki.jp」では、Webサイトやアプリを介してユーザーへ情報を提供しており、主な収入はそれらに掲載される広告で得られる収入であります。したがって、Web検索エンジンやアプリを提供するApple Inc.、Google LLC等、プラットフォーム事業者の事業方針が変更され、新たな規制等が行われた場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 不適切な広告配信について

当社グループはtenki.jp事業において、運用型広告及び純広告を掲載して広告収入を得ております。これらの広告は、不当景品類及び不当表示防止法、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、等の各種法令で一定の制約が掛けられております。そのため、当社グループでは、「tenki.jp」における適切な広告表示体制を構築するためのマニュアルを定め、各種法令に違反するような広告掲載を行わないよう努めております。しかしながら、何らかの要因によってこれらの対応に不備が生じた場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 特定事業への依存について

当社グループの売上は、tenki.jp事業による収益が大部分を占めております。前述のとおり、インターネットの普及や同広告市場は年々拡大傾向にありますが、マーケティング活動は全般的に景気動向の影響を受けやすく、顧客企業における広告マーケティング費の支出が縮小する場合は、当社グループの財政状態及び経営成績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(10) 特定の取引先への依存について

当社グループの主な収益源は、日本気象協会から定められたレベニューシェアの割合に応じて配分される「tenki.jp」で得られる広告収入であります。「tenki.jp」の重要な取引先(第一部 企業情報 第1 企業の概況 3 事業の内容 [事業系統図]における「アドネットワーク」)であるグーグル合同会社への売上高が当社のtenki.jp事業の売上高に占める割合は、当連結会計年度において45.4%、前連結会計年度は35.2%となっております。今後も当社グループ及び日本気象協会は当該企業との良好な関係を続けてまいりますが、当該企業の事情や施策の変更等、何らかの理由により当該企業との取引が大幅に減少する場合は、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 災害・事故等の発生について

広告主の広告宣伝活動は、自然災害、大規模な事故、電力その他の社会インフラの障害等の影響を受けやすい傾向にあります。従って、これらの災害・事故等が発生した場合、広告需要減退等により当社グループの財政状態及

び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 新規事業開発について

当社グループの今後の事業展開としまして、事業規模の拡大と高収益化を目指して、既存事業に留まらず新規事業開発に積極的に取り組んでいく方針であります。とりわけ新規事業の立ち上げについては、既存事業よりもリスクが高いことを認識しております。入念な市場分析や事業計画構築にも関わらず、予測とは異なる状況が発生し、新規事業の立ち上げが計画どおりに進まない場合は、投資資金を回収できず当社グループの経営成績及びキャッシュ・フローに影響を及ぼす可能性があります。

(13) 収益モデル転換について

当社グループの主力事業であるtenki.jp事業は広告収益が中心であります。天候変動やAI検索の普及等による検索行動・流入環境の変化など、外部環境への依存度が高い収益構造であることから、収益の安定性に構造的な課題があると認識しております。そのため、ユーザー基盤を軸としたLTV（ライフタイムバリュー）型の収益モデルへの転換を推進しておりますが、会員基盤の構築及び体験価値領域の収益化には一定の時間を要する見込みであり、収益化に想定以上の時間を要した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(14) M&A及び業務提携について

当社グループは、自社で取り組む新規事業開発に加えて、M&A及び他社との業務提携を通じた事業展開を推進しております。M&A及び提携にあたっては、経営戦略との整合性やシナジー効果を勘案して対象企業の選定を行い、当該企業の財務内容、契約関係、事業の状況等についてデューデリジェンスを実施した上で、取締役会において慎重な判断を行うよう努めております。しかしながら、これらのM&Aや業務提携が期待どおりの効果を生まず戦略目的が達成できない場合、投資後に未認識の債務や問題が判明した場合等には、対象企業の株式価値や譲り受けた事業資産の減損処理を行う必要が生じる等、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(15) のれんの減損について

当社グループは、企業買収の際に生じたのれんを計上し、一定期間で償却を行っております。当該のれんについては、将来の収益力を適切に反映しているものと判断しておりますが、事業環境の変化等により期待する成果が得られなかった場合には、当該のれんについて減損損失を計上し、当社グループの業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(16) システムの安定性について

当社グループのサービスは24時間稼働での運用を前提に提供されております。従ってシステムに障害が発生することはサービスの停止を意味するため、システムの安定性、安全性には細心の注意を払っております。また、インプレッション数(広告の表示回数)の増加を考慮したサーバー設備の強化や、負荷分散を施すための冗長構成を実現しております。

当社グループはさくらインターネット株式会社が提供するデータセンターを利用し、大量のデータを安全かつ迅速に処理することができ、かつ一時的な過負荷や部分停止にもトラブルを回避できるようなサーバー構成を施しております。

しかしながら、災害のほか、コンピューターウイルスやハッキング等の外的攻撃やソフトウェアの不具合、その他予測できない重大な事象の発生により、万一当社設備やネットワークが利用できなくなった場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(17) 特定人物への依存について

当社グループである株式会社A L i N Kインターネットの代表取締役である、池田洋人（以下、「同氏」という。）は、インターネット広告業界に関する知識と経験を有しているだけでなく、気象予報士を取得する等、気象に関する知識を保有しております。

そのため、同氏は当社グループの経営戦略の構築等に際して重要な役割を担っております。当社グループは、特定の人物に依存しない体制を構築すべく経営体制の強化を図り、同氏に過度に依存しない経営体制の整備を進めておりますが、現状では何らかの理由により同氏の当社グループにおける業務執行が困難になった場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(18) 当社の組織の規模について

当社グループは小規模な組織(2026年2月末現在、従業員35名)であり、業務執行体制及び管理体制もこれに応じたものとなっております。当社グループは今後の急速な事業拡大に応じて、業務執行体制及び管理体制の充実を図っていく方針ではありますが、これらの施策が適時適切に進行していかなかった場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(19) 人材の確保及び育成について

当社グループは現時点において小規模な組織であるため、当社グループの事業活動においては人材への依存度が大きく、今後更なる事業拡大に対応するためには、継続して優秀な人材を確保・育成することが必要であると考えております。しかしながら、必要な人材の確保及び育成が想定どおりに進まない場合、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(20) 法的規制について

現時点において、当社グループの主力事業であるtenki.jp事業に関連して、事業継続に重要な影響を及ぼす法的規制はないものと認識しております。しかしながら、当社グループの属するインターネット広告市場を含めインターネットの利用者や事業者を規制対象とする法令や行政指導、その他の規制等が制定された場合には当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(21) 配当政策について

当社は、設立以来配当を実施した実績はありませんが、株主に対する利益還元を重要な経営課題であると認識しております。当社の配当の基本的な方針は、事業基盤の整備状況、業績や財政状態等を総合的に勘案し、配当の実施を決定することとしております。

当面は、事業基盤の整備を優先することが株主価値の最大化に資するとの考えから、その原資となる内部留保の充実を基本方針とさせていただき所存であり、当事業年度において配当は行っておりません。

内部留保資金につきましては、将来の事業展開のための財源として利用していく予定であります。

なお、剰余金の配当を行う場合、年1回の期末配当を基本方針としており、期末配当の決定機関は株主総会となっております。また、当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当制度を採用しており、中間配当を取締役会の決議によって行うことができる旨を定款に定めております。

(22) 新株予約権の行使による株式価値の希薄化について

当社グループでは、株主価値の向上を意識した経営の推進を図るとともに、役員及び従業員の業績向上に対する意欲や士気を一層高めることを目的として、当社グループの役職員に対して新株予約権を付与しております。

本書提出日現在における新株予約権による潜在株式数は199,900株であり、発行済株式総数2,136,900株の9.35%に相当します。

これらの新株予約権が行使された場合には、当社グループの1株当たりの株式価値が希薄化し、当社グループの株価に影響を及ぼす可能性があります。

#### 4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の分析は、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において判断したものであります。

##### (1) 財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

###### 経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、米国の通商政策の影響が残るものの、緩やかに回復してきており、個人消費は持ち直しの動きがみられるほか、インバウンド需要の拡大などで緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、今後の物価動向や米国の通商政策をめぐる動向など、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは“未来の予定を晴れにする”を経営理念として、主力サービスである天気予報専門メディア「tenki.jp」を一般財団法人日本気象協会との共同事業として運営しております。

tenki.jp事業においては、安定的なPV(ページビュー)数の増加とPV当たり広告単価の維持に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高1,015,965千円（前期比14.4%増）、営業損失94,618千円（前期は営業利益43,396千円）、経常損失63,079千円（前期は経常利益62,226千円）、親会社株主に帰属する当期純損失272,456千円（前期は親会社株主に帰属する当期純利益57,254千円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前期比較については、前期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 [注記事項] (セグメント情報等)」をご参照下さい。

###### (tenki.jp事業)

当連結会計年度のPV数は、主要検索エンジンでの検索ランキングは直近24ヶ月で最高水準を記録したものの、降水量の減少（主要5大都市の降水量は前期比大幅減）に加え、AI検索の台頭、検索エンジンやブラウザ独自の気象データ表示の影響により、検索エンジンからの流入数が減少し前期比88.5%の53億PVとなりました。

PV当たり広告単価は、前期比100.8%となりました。

費用面に関しては、将来の売上高及び利益の向上を目的として、新たな収益モデルの構築に向けた人件費や開発費等の投資を継続しております。

この結果、売上高554,131千円（前期比14.2%減）、セグメント利益179,959千円（前期比36.6%減）となりました。

###### (IPプロデュース事業)

当連結会計年度においては、温泉地でしか購入できない「温泉むすめ」のグッズ販売や温泉地の魅力を発信するイベントの開催等は計画に対し順調に推移いたしました。ほか活アプリの開発費用51,204千円に加え、のれんの償却33,680千円を計上したことなどにより、売上高286,390千円（前期比94.6%増）、セグメント損失115,604千円（前期は75,048千円の損失）となりました。

###### (太陽光コンサルティング事業)

太陽光コンサルティング事業は、従来、既存のtenki.jp事業以外の新規事業の一環として「その他の事業」に含めて表示しておりましたが、当社グループの売上高に占める割合が増したため、太陽光コンサルティング事業として新規の報告セグメントとすることに変更いたしました。本事業では、太陽光発電設備のセカンダリー市場において、一時的に太陽光発電設備を保有することにより、売電収入を得ております。この結果、売上高133,289千円（前期比88.3%増）、セグメント利益129,081千円（前期比89.1%増）となりました。

###### (その他の事業)

その他の事業では、既存のtenki.jp事業以外の事業領域の拡大のため新規事業への参入を図っており、ダイナミックプライシング事業を進めております。本事業では、ダイナミックプライシング事業に先立つPoC（実証実験）として、首都圏においてレンタルスペースの運営を行っております。この結果、売上高42,153千円（前期比68.9%増）、セグメント損失31,521千円（前期は23,631千円の損失）となりました。

## 財政状態の状況

### (資産)

当連結会計年度末における総資産は1,840,485千円となり、前連結会計年度末に比べ5,619千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が287,987千円、のれんが217,360千円それぞれ減少したものの、短期貸付金が430,409千円増加したことによるものです。

### (負債)

当連結会計年度末における負債合計は451,796千円となり、前連結会計年度末に比べ278,075千円増加いたしました。これは主に、短期借入金が300,000千円増加したことによるものです。

### (純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は、1,388,689千円となり、前連結会計年度末に比べ272,456千円減少いたしました。これは主に、当期純損失の計上により利益剰余金が272,456千円減少したことによるものです。

## キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ287,987千円減少し、当連結会計年度末残高は455,389千円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は157,955千円(前期は255,281千円の獲得)となりました。これは主に、のれんの償却33,680千円や減損損失186,345千円を計上したものの、税金等調整前当期純損失249,424千円や未収消費税等の増減額による支出61,199千円のほか、法人税等の支払額による支出73,672千円によるものです。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は431,084千円(前期は350,467千円の使用)となりました。これは主に、短期貸付金の純増減額による支出430,409千円によるものです。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は300,000千円(前期の発生はありません)となりました。これは短期借入金の純増減額による収入300,000千円によるものです。

## 生産、受注及び販売の実績

## a. 生産実績

当社グループが提供するサービスの性質上、生産実績の記載になじまないため、当該記載を省略しております。

## b. 受注実績

当社グループが提供するサービスの性質上、受注実績の記載になじまないため、当該記載を省略しております。

## c. 販売実績

当社グループの当連結会計年度における販売実績をセグメント別に記載すると以下のとおりです。

事業の名称	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)	
	販売高(千円)	前年同期比(%)
tenki.jp事業	554,131	85.8
IPプロデュース事業	286,390	194.6
太陽光コンサルティング事業	133,289	188.3
その他の事業	42,153	168.9
合計	1,015,965	114.4

なお、主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)		当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
一般財団法人日本気象協会	645,512	72.7	553,763	54.5

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 上記の金額は、日本気象協会が取りまとめた上で、レベニューシェアとして当社に分配される形となっております。

3. 日本気象協会との共同事業である天気予報専門メディア「tenki.jp」における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。なお、下表記載の金額については、日本気象協会が取りまとめた上で、レベニューシェアとして当社に分配される形となっております。

相手先	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)		当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
グーグル合同会社	312,544	35.2	251,336	45.4

## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

経営者は「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載されている様々な課題に対処し、ユーザーにより良いサービスを継続的に提供していくことが必要であると認識しております。そのため、経営者は、外部環境の変化に関する情報の入手及び分析を行い、現在及び将来における事業環境を把握する中で課題を抽出し、それに対する対応策を実施していく方針であります。

## 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠して作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性が存在するため、これらの見積りとは異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 重要な会計上の見積り」に記載してあります。

## 経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容については、「(1) 財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容」に含めて記載しております。

## 資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、人件費、広告宣伝費等の営業費用であり、必要な資金は自己資金、金融機関からの借入及びエクイティファイナンス等で資金調達していくことを基本方針としております。なお、これらの資金調達方法の優先順位等に特段方針はなく、資金需要の額や用途に合わせて柔軟に検討を行う予定であります。

## 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「3 事業等のリスク」をご参照下さい。

## 経営者の問題意識と今後の方針について

経営者の問題意識と今後の方針については、「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」をご参照下さい。

## 5 【重要な契約等】

相手方の名称	契約の名称	契約締結日	契約内容(注)	契約期間
一般財団法人 日本気象協会	「tenki.jp」の運営に 関する業務提携契約書	2022年 4月15日	「tenki.jp」の共同運営に 関し、各々の業務内容及び 業務提携の諸条件を定める ことを目的とする。	契約締結から3年間とし、1 年間ごとに自動的に更新され る。 契約を終了させようとする場 合には、契約期間の末日から 1年前までに相手方に通知す るものとし、その場合は両者 の協議によって対応を定め る。

(注) 1. 本書提出日現在において、契約終了に関する通知は相互になされておられません。

2. 契約内容の詳細は以下のとおりです。

- ・「tenki.jp」という名称にてWebサイト、アプリケーション(iOS、Android)を運営。
- ・共同事業の業務分担は「第1 企業の概況 3 事業の内容」に記載のとおりです。
- ・「tenki.jp」に関する収益は、当該契約書で定めたレベニューシェア率(当社：日本気象協会 = 49.5 : 50.5)にて配分される。
- ・「tenki.jp」に関する費用は、業務の担当が負担するものとするが、当社と日本気象協会が協議により同意した費用等は、当該契約書で定めたレベニューシェア率にて負担する。
- ・当社及び日本気象協会は協議の上、「tenki.jp」に関する事業方針・事業計画、仕様及び運営方法を定めるものとする。
- ・当社及び日本気象協会は、相手方に対して本契約に定めた業務提携事項の遂行状況、及び業務提携そのものの遂行状況について定期的に報告しなければならない。
- ・本契約に関連した事項の公表について、当社及び日本気象協会は、事前に協議の上、公表する時期、内容及び方法を定めた後に行うものとする。なお、適時開示事項については当社の判断で公表できることとする。
- ・当社及び日本気象協会のいずれかの当事者が、契約に定めのある契約解除要件(契約違反の状態が解消されない場合や破産手続開始・民事再生手続開始・会社更生手続開始の申立、清算に入った場合等)に該当するときは、相手方は催告なくして、直ちに本契約を解除し、損害賠償の請求をすることができるものとする。
- ・商標等は共同で出願する。著作権の取扱いについて、「tenki.jp」に関するWebサイト、アプリケーションを生成するプログラム及びシステム等は当社に帰属し、日本気象協会の提供する気象情報及びコンテンツは日本気象協会に帰属する。また、日本気象協会が使用を許諾した著作物を利用して当社が制作した図形、プログラム等の著作権は、当社及び日本気象協会の共有とし、持分はレベニューシェア率に応じた割合とする。
- ・「tenki.jp」の運営の過程で生じた発明等が、当社又は日本気象協会のいずれか一方のみによって行われた場合、当該発明等に関する産業財産権は、当該発明等を行ったものが属する当事者に帰属する。また、発明等が当社及び日本気象協会の共同で行われた場合、当該発明時に関する産業財産権は当社及び日本気象協会の共有とし、産業財産権の持分はレベニューシェア率に応じた割合とする。
- ・当社及び日本気象協会は、本契約が、期間の満了または解除等理由の如何に関わらず終了した場合、本契約に関する全ての共有物及び権利等につき、レベニューシェア率に応じた割合にて分配するものとする。ただし、著作権及び産業財産権については、先述のとおり、当社又は日本気象協会に帰属する。
- ・当社及び日本気象協会は、相手方の責に帰すべき契約不履行により現実に損害を被った場合には、相手方に対して当該損害の賠償を請求できるものとする。
- ・当社及び日本気象協会は、本契約上の地位及び本契約から生じる権利、義務を第三者に譲渡し、承継又は担保に供してはならない。また、当社は、日本気象協会が提供した情報を第三者に再提供してはならない。但し、書面により相手方の承諾を得た場合は、この限りでない。
- ・当社及び日本気象協会は、本契約に基づいて知った相手方の技術上、販売上その他業務に関する事項を、本契約期間中及び本契約が事由の如何を問わず終了した後は、契約に定める一部の情報を除いて、第三者に開示しない。
- ・当社及び日本気象協会は、「tenki.jp」の名称を用いて関連サービス等を共同して新たに事業化する場合においては、当社及び日本気象協会間でその条件等を協議し、別途契約を締結するものとする。

## 6 【研究開発活動】

当連結会計年度における研究開発活動の金額は60,466千円となりました。これは主に、IPプロデュース事業におけるデジタル化を進めるためのアプリ開発費であります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施した設備投資の総額（事業譲受により取得した資産、資産除去債務に対応する除去費用は含まない）は1,667千円であり、その主な内容は、システム開発用のパソコンの購入であります。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

2026年2月28日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	その他	合計	
本社 (東京都豊島区)	tenki.jp事業	本社機能等	16,007		1,544	17,552	30
太陽光発電設備 (茨城県笠間市他)	太陽光コンサル ティング事業	太陽光発電設備		8,300		8,300	

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。  
2. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。  
3. 従業員数は、就業人員であります。

##### (2) 国内子会社

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設

該当事項はありません。

##### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

## (1) 【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	7,800,000
計	7,800,000

## 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2026年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (2026年5月27日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	2,136,900	2,136,900	東京証券取引所 グロース市場	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式であり ます。 単元株式数は100株でありま す。
計	2,136,900	2,136,900		

(注) 提出日現在発行数には、2026年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

## (2) 【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

## 第1回新株予約権

決議年月日	2017年10月2日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 2 当社従業員 6 (注) 8
新株予約権の数(個)	1,100
新株予約権の目的となる株式の種類、 内容及び数(株)	普通株式 66,000 (注) 1、7
新株予約権の行使時の払込金額(円)	159 (注) 2、7
新株予約権の行使期間	自 2019年10月20日 至 2027年9月30日
新株予約権の行使により株式を 発行する場合の株式の発行価格 及び資本組入額(円)	発行価格 159 資本組入額 80 (注) 7
新株予約権の行使の条件	(注) 3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡については、当社取締役会の決議による承認を要する。
組織再編成行為に伴う新株予約権の 交付に関する事項	(注) 5

当事業年度の末日(2026年2月28日)における内容を記載しております。提出日の前月末現在(2026年4月30日)において、記載すべき内容が当事業年度の末日における内容から変更がないため、提出日の前月末現在に係る記載を省略しております。

(注) 1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、60株であります。当社が当社普通株式の株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。ただし、かかる調整は本新株予約権のうち、当該時点で権利行使していない本新株予約権の目的となる株式についてのみ行われ、調整の結果1株の100分の1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割(または併合)の比率

また、当社が合併、会社分割、株式交換または株式移転(以下、総称して「合併等」という。)を行う場合、株式の無償割当を行う場合、その他上記付与株式数の調整を必要とする場合には、合併等の条件、株式

の無償割当の条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で付与株式数を調整することができる。

2. 本新株予約権の行使に際してする出資の目的は金銭とし、その価額は、本新株予約権の行使に際して払込みをすべき1株当たりの金額(以下、「行使価額」という。)に本新株予約権にかかる付与株式数を乗じた金額とする。

なお、本新株予約権発行後、当社が当社普通株式につき株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、調整前行使価額を下回る価額で当社普通株式につき、新株式の発行または自己株式の処分を行う場合(当社普通株式に転換される証券もしくは転換できる証券または当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の転換または行使の場合を除く。)、上記の行使価額は、次の算式により調整されるものとし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株あたり払込金額}}{\text{調整前行使価額}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

上記算式において、「既発行株式数」とは、当社の発行済普通株式総数から当社が保有する普通株式に係る自己株式数を控除した数とし、また、自己株式の処分を行う場合には「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」と読み替えるものとする。

さらに、当社が合併等を行う場合、株式の無償割当を行う場合、その他上記の行使価額の調整を必要とする場合には、合併等の条件、株式の無償割当の条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で行使価額を調整することができる。

3. 本新株予約権の行使の条件

本新株予約権の1個の一部行使は認めないものとする。

本新株予約権の割当てを受けた者(以下、「本新株予約権者」という。)は、本新株予約権の行使時において、当社またはその子会社の取締役、監査役または使用人(以下、「当社役員等」という。)の地位を有することを要し、当社役員等の地位を失った場合は行使できないものとする。なお、本新株予約権者が当社役員等の地位を失った後、再度当社役員等の地位を得た場合であっても、本新株予約権の行使はできないものとする。

本新株予約権者は、当社が東京証券取引所その他これに類する国内又は国外の証券取引所に上場する日まで権利行使することができないものとする。

本新株予約権者が所定の書面により新株予約権の全部または一部を放棄する旨を申し出た場合、その後、当該申し出た部分について本新株予約権を行使することはできない。

本新株予約権の質入れ、担保権の設定は認めないものとする。

本新株予約権者が死亡した場合は、本新株予約権の相続は認められない。ただし、当社取締役会の決議により承認を得た場合は、この限りでない。

4. 当社が本新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件

本新株予約権者が、当社役員等の地位を失った場合には、当社は取締役会の決議により一定の日を定め、その者が有する新株予約権の全部又は一部を無償で取得することができる。

以下のいずれかの事由が発生した場合には、当社は取締役会の決議により一定の日を定め、新株予約権の全部又は一部を無償で取得することができる。

- (a) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案が株主総会(株主総会決議が不要の場合は、「取締役会」とする。)で承認された場合
- (b) 当社の議決権の過半数に相当する株式が第三者に対して一括して譲渡されることが当社に承認された場合
- (c) 当社の事業の全部又は重要な一部の第三者への譲渡が株主総会(株主総会決議が不要の場合は、「取締役会」とする。)で承認された場合
- (d) 本新株予約権者が当社と競合する業務を営む法人を直接若しくは間接に設立し、又はその役員若しくは使用人に就任する等、名目を問わず当社と競業した場合。但し、当社の書面による事前の承認を得た場合を除く。
- (e) 本新株予約権者が法令違反その他不正行為により会社又は子会社の信用を損ねた場合
- (f) 本新株予約権者が暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動標ぼうゴロ、政治運動標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団、その他反社会的勢力(以下、「反社会的勢力」という。)に該当した場合、又は資金提供等を通じて反社会的勢力等と何らかの交流若しくは関与を行っていることが判明した場合
- (g) 本新株予約権者が禁錮以上の刑に処せられた場合
- (h) 本新株予約権者が第1回新株予約権割当契約書の内容に違反した場合

5. 組織再編時の取扱い

当社は、当社を消滅会社、分割会社もしくは資本下位会社とする組織再編を行う場合において、組織再編を実施する際に定める契約書または計画書等の規定に従い、本新株予約権者に対して、当該組織再編に係る存続会社、分割承継会社もしくは資本上位会社となる株式会社の新株予約権を交付することができるものとする。ただし、当該契約書または計画書等において別段の定めがなされる場合はこの限りではない。

6. 本新株予約権の行使により発生する端数の切捨て

本新株予約権を行使した新株予約権者に交付する株式の数に1株に満たない端数がある場合には、これを切り捨てるものとする。

7. 2019年8月5日開催の取締役会決議により、2019年8月21日付で普通株式1株につき60株の株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。
8. 付与対象者の退職等による権利の喪失により、本書提出日現在の「付与対象者の区分及び人数」は、当社取締役1名となっております。

## 第2回新株予約権

決議年月日	2023年3月14日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 2 当社従業員 4 (注)6
新株予約権の数(個)	1,339
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 133,900 (注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,019 (注)2
新株予約権の行使期間	自 2023年3月29日 至 2033年3月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,020 資本組入額 510
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡については、当社取締役会の決議による承認を要する。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5

当事業年度の末日(2026年2月28日)における内容を記載しております。提出日の前月末現在(2026年4月30日)において、記載すべき内容が当事業年度の末日における内容から変更がないため、提出日の前月末現在に係る記載を省略しております。

### (注) 1. 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数

本新株予約権1個当たりの目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は、当社普通株式100株とする。なお、付与株式数は、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割(当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。)または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割(または併合)の比率

また、本新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割、株式交換または株式交付を行う場合その他これらの場合に準じ付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に付与株式数の調整を行うことができるものとする。

### 2. 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額または算定方法

本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、1株あたりの払込金額(以下、「行使価額」という。)に、付与株式数を乗じた金額とする。

行使価額は、本新株予約権の割当日の東京証券取引所における当社株式の普通取引終値(取引が成立していない場合は、それに先立つ直近取引の終値)に1.05を乗じた金額(1円未満の端数は切り上げ)とする。

なお、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割(または併合)の比率}}$$

また、本新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合(新株予約権の行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分または合併、会社分割、株式交換及び株式交付による新株の発行及び自己株式の交付の場合を除く。)、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株あたり払込金額}}{\text{新規発行前の1株あたりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、本新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割、株式交換または株式交付を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

### 3. 新株予約権の行使の条件

本新株予約権の割当日から行使期間の終期に至るまでの期間において、東京証券取引所における当社普通株式の普通取引終値（以下、「終値」という。）の1ヶ月間（当日を含む21取引日）の平均値が一度でも本新株予約権の割当日の終値に50%を乗じた価格を下回った場合、新株予約権者は残存するすべての本新株予約権を行使期間の満期日までに行使しなければならないものとする。但し、次に掲げる場合に該当するときはこの限りではない。

- (a) 当社の開示情報に重大な虚偽が含まれることが判明した場合
- (b) 当社が法令や金融商品取引所の規則に従って開示すべき重要な事実を適正に開示していなかったことが判明した場合
- (c) 当社が上場廃止となったり、倒産したり、その他本新株予約権発行日において前提とされていた事情に大きな変更が生じた場合
- (d) その他、当社が新株予約権者の信頼を著しく害すると客観的に認められる行為をなした場合

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

### 4. 新株予約権の取得に関する事項

当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる会社分割についての分割契約もしくは分割計画、または当社が完全子会社となる株式交換契約、株式交付計画もしくは株式移転計画について株主総会の承認（株主総会の承認を要しない場合には取締役会決議）がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権の全部を無償で取得することができる。

### 5. 組織再編行為の際の新株予約権の取扱い

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する本新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件を勘案のうえ、上記(注)1に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記(注)2で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、上記(注)5. に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。

新株予約権を行使することができる期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から上記「新株予約権の行使期間」に定める期間の末日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

その他新株予約権の行使の条件

上記(注)3に準じて決定する。

新株予約権の取得事由及び条件

上記(注)4に準じて決定する。

その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

### 6. 付与対象者の取締役就任により、本書提出日現在の「付与対象者の区分及び人数」は、当社取締役2名、当社従業員2名、元従業員2名となっております。

## 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年3月1日～ 2022年2月28日 (注)	34,500	2,136,900	2,742	138,087	2,742	135,087

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

## (5) 【所有者別状況】

2026年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		1	20	20	10	3	2,477	2,531	
所有株式数 (単元)		1	353	275	30	4	20,694	21,357	1,200
所有株式数 の割合(%)		0.00	1.65	1.29	0.14	0.02	96.90	100.00	

(注) 自己株式330,068株は、「個人その他」に3,300単元、「単元未満株式の状況」に68株含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

2026年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
池田洋人	埼玉県大里郡寄居町	815,900	45.15
松本修士	東京都港区	278,200	15.39
亀井友廣	岡山県新見市	51,000	2.82
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	22,395	1.23
一般財団法人日本気象協会	東京都豊島区東池袋3丁目1-1	20,400	1.12
内田龍夫	愛知県額田郡幸田町	16,600	0.91
橋本竜	東京都渋谷区	12,000	0.66
河田健	東京都武蔵野市	11,600	0.64
松本敦	千葉県市川市	10,000	0.55
田畑聡志	福岡県大牟田市	5,900	0.32
計		1,243,995	68.84

(注) 当社は、自己株式330,068株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2026年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 330,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,805,700	18,057	同上
単元未満株式	普通株式 1,200		
発行済株式総数	2,136,900		
総株主の議決権		18,057	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式が68株含まれております。

## 【自己株式等】

2026年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ALiNKインターネット	東京都豊島区東池袋1丁目 10-1 住友池袋駅前ビル4階	330,000		330,000	15.44
計		330,000		330,000	15.44

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

## (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

## (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、株式交付、 会社分割に係る移転を行った 取得自己株式				
その他(第三者割当による自己株式 の処分)				
保有自己株式数	330,068		330,068	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2026年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

## 3 【配当政策】

当社グループは、設立以来配当を実施した実績はありませんが、株主に対する利益還元を重要な経営課題であると認識しております。当社グループの配当の基本的な方針は、事業基盤の整備状況、業績や財政状態等を総合的に勘案し、配当の実施を決定することとしております。

当面は、事業基盤の整備を優先することが株主価値の最大化に資するとの考えから、その原資となる内部留保の充実を基本方針とさせていただき所存であり、当事業年度において配当は行っておりません。

内部留保資金につきましては、将来の事業展開のための財源として利用していく予定であります。

なお、剰余金の配当を行う場合、年1回の期末配当を基本方針としており、期末配当の決定機関は株主総会となっております。また、当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当制度を採用しており、中間配当を取締役会の決議によって行うことができる旨を定款に定めております。

## 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは経営の透明性と法令遵守を徹底するため、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な課題として認識し、その充実に取り組んでおります。

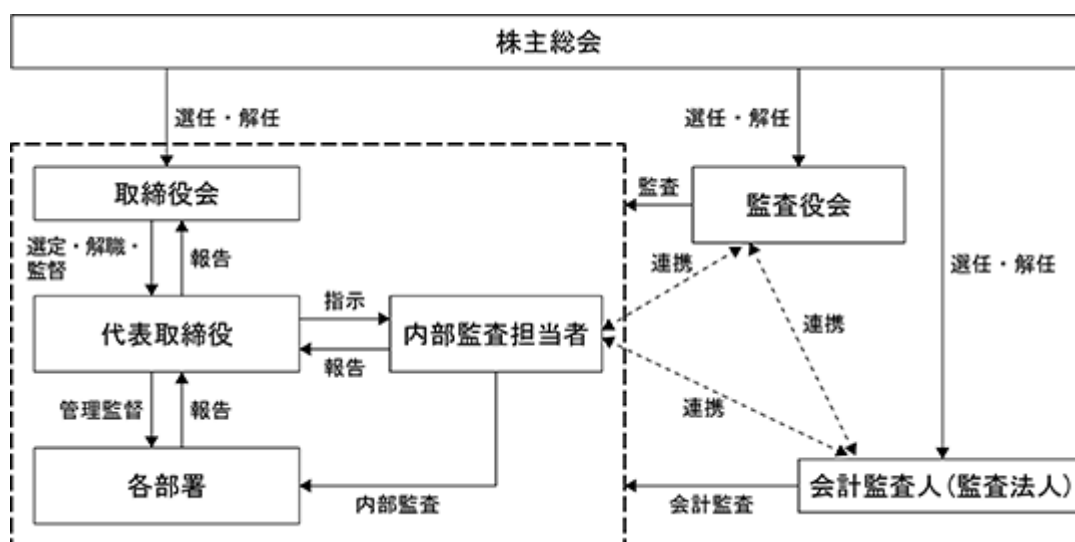
全てのステークホルダーを尊重し、企業の健全性、透明性を高めるとともに、長期的かつ安定的な株主価値の向上に努めるため、迅速で合理的な意思決定体制及び業務執行の効率化を可能とする社内体制を構築し、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでまいります。

企業統治の体制及びその体制を採用する理由

当社は、取締役会にて機動的な意思決定を行う一方、社外監査役によって構成される監査役会にて、客観的な監査を行うことで、コーポレート・ガバナンスの実効性を担保することが可能となるため、当該体制を採用しております。また、代表取締役に指名された内部監査担当者が内部監査機能を担っており、各機関・機能の相互連携によりコーポレート・ガバナンス機能が有効に機能すると判断し、現状の企業統治の体制を採用しております。

当社は、会社の機関として、取締役会、監査役会及び会計監査人を設置しております。

当社の本書提出日現在のコーポレート・ガバナンスの体制は下図のとおりであります。



#### a. 取締役会

取締役会は取締役4名(うち社外取締役1名)で構成され、迅速かつ機動的に重要な業務執行に関する意思決定を行うほか、法令・定款に定められた事項、経営方針、事業戦略、年度事業計画ほか、経営に関する重要事項の決定を行っております。また、全ての監査役が出席し、取締役の業務執行の状況を監視できる体制を整えており、原則として毎月1回開催しております。また、必要に応じて臨時取締役会を開催し、適正かつ効率的な業務執行ができる体制を整備しております。

なお、当社は、2026年5月28日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として、「取締役4名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されますと、取締役4名(うち社外取締役1名)となる予定です。

取締役会構成員の氏名等

議長	代表取締役	池田 洋人
構成員	取締役	富田 知尚
	取締役	松本 修士
	取締役(社外)	柴田 幸夫

## b. 監査役会

監査役会は監査役3名(全員が社外監査役であり、うち1名は常勤監査役)で構成され、監査の実効性及び効率性の確保並びに監査役間での意見交換を目的に、監査役会を原則として毎月1回開催しております。また、監査役は取締役会に出席し、必要に応じて意見を述べております。

なお、監査役は会計監査人と緊密な連携を保ち、情報交換を行い、相互の連携を深めて、監査の実効性と効率性の向上に努めております。

また、監査役会においては監査役監査基準の整備、監査計画を策定し、監査実施状況、監査結果等について監査役間で共有しております。

常勤監査役は内部監査担当者及び会計監査人とのミーティングを行うほか、随時情報交換を行っております。

## 監査役会構成員の氏名等

議長	常勤監査役(社外)	横小路 喜代隆
構成員	監査役(社外)	木村 貴弘
	監査役(社外)	田嶋 清孝

## 企業統治に関するその他の事項

## a. 内部統制システムの整備の状況

当社グループでは業務執行の適正性・財務報告の正確性を確保する体制として、「内部統制システム構築に関する基本方針」を定め、当該方針に基づき、内部統制システムの整備・運用を行っております。

## イ. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (1) 当社グループ及び役員が法令及び定款を遵守し、倫理を尊重する行動ができるように、コンプライアンスガイドラインを定める。
- (2) 当社のコンプライアンスに係る内部通報窓口を利用して、取締役の法令違反につき通報できる体制をとり、コンプライアンス体制の機能状態をモニタリングする。
- (3) 取締役会の事務局を設置し、必要に応じて速やかに取締役会を開催し、取締役会工程基準の定める事項が適時に上程・審議される体制とし、取締役会の議案について十分な審議を可能とする資料の作成支援、議案内容の事前説明を行うことにより、社外取締役及び監査役の議案の理解を促し、適法性その他の確認が適切になされることを確保する。
- (4) 取締役は、他の取締役の法令又は定款に違反する行為を発見した場合、直ちに監査役会及び取締役会に報告する。

## ロ. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、文書管理規程及び情報セキュリティ規程に従い、適切に記録、保存、管理する。

## ハ. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 当社グループのリスク管理を体系的に定めるリスク管理規程を定め、同規程に基づくリスク管理体制の構築及び運用を行う。
- (2) 内部監査担当者は各組織のリスク管理状況を監査し、その結果を代表取締役に報告する。

## ニ. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 取締役会は、取締役会規程、職務権限規程、業務分掌規程及び稟議規程等を定め、業務執行の責任体制と業務プロセスを明確にすることにより、取締役会の決定に基づく業務執行の迅速かつ効率的な処理を推進する。
- (2) 取締役の職務の執行を効率的に行うことを確保する体制として、毎月1回定例の取締役会の他、随時に取締役の3分の2以上で構成する会議を開催し、基本方針・戦略を決定する。

- ホ．使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
内部監査担当者が監査計画を立案し、各部門の監査を定期的に行う。
- ヘ．子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の会社への報告に関する体制  
職務執行上の重要な事項に関して、親会社の取締役会へ定期的な報告を行う。
- ト．当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制  
子会社の業務の適正を確保するため、「関係会社管理規程」その他関連規程に基づき、子会社が当社の取締役会や社長承認を要する事項及び報告する事項を定め、連携と統制を行う。
- チ．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項  
(1) 監査役が必要と判断し求めた場合には、監査役の職務を補助する使用人を速やかに設置する。  
(2) 補助すべき使用人を設置する場合には、使用人の人数や人事異動・人事考課等については監査役会の同意を要するものとし、取締役からの独立性が確保されるよう、その人事については、取締役と監査役が協議を行う。
- リ．監査役への報告に関する体制その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制  
(1) 重要な意思決定のプロセスや業務の執行状況を把握するため、監査役は取締役会に出席する。  
(2) 監査役は、毎月1回定時に監査役会を開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、監査実施状況等について情報交換及び協議を行うとともに、会計監査人から定期的に会計監査に関する報告を受け、意見交換を行う。  
(3) 取締役及び使用人は、監査役の求めに応じ、随時その職務の執行状況その他に関する報告を行う。  
(4) 監査役は、取締役会議事録等の業務執行に関わる記録を常に見閲することができる。  
(5) 監査役は、稟議書等全ての重要な決裁書類を確認することができる。
- ヌ．財務報告の信頼性と適正性を確保するための体制  
当社グループは、会社法、会社法施行規則及び金融商品取引法に基づき財務報告の信頼性を確保するために、財務報告に係る内部統制の体制整備、運用、評価を継続的に行うことで、不備に対する必要な是正措置を講じるものとする。
- ル．反社会的勢力排除に向けた体制  
(1) 当社グループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは、社会的責任及び企業防衛等の観点から、断固として対決する旨を、活動方針に定める。  
(2) 反社会的勢力からの不当な要求があった際は、顧問弁護士へ逐一相談を行うこととする。

## б．リスク管理体制の整備の状況

### イ．リスク管理体制の整備状況

当社グループは、持続的な成長を確保するため「リスク管理規程」を制定し、全社的なリスク管理体制の強化を図っております。代表取締役及び各管掌取締役が日常業務を通じて、潜在的なリスクに対して注意を払い、リスクの早期発見と、顕在化しているリスクについてはその影響を分析し、必要な対策を協議するため、リスクの評価、対策等、広範なリスク管理に関し協議を行い、具体的な対応を検討しております。また、必要に応じて弁護士、公認会計士、弁理士、税理士、社会保険労務士等の外部専門家の助言を受けられる体制を整えており、リスクの未然防止と早期発見に努めております。

### ロ．コンプライアンス体制の整備状況

当社グループでは、「コンプライアンスガイドライン」を定め、全役職員がとるべきコンプライアンス行動方針を定めております。同ガイドラインに沿って全社的なコンプライアンス体制の強化・推進を目的に代表取締役のもと、法令遵守について都度確認、啓蒙し、各取締役がそれぞれの管掌部門に周知徹底させる形でコンプライアンスの意識向上を図っております。また内部通報制度として通報窓口を社内及び社外に設置しております。

### ハ．情報セキュリティ、個人情報保護等の体制の整備状況

情報セキュリティ、個人情報保護については、「情報セキュリティ規程」、「個人情報保護規程」等の規程・マニュアルを定め、情報セキュリティ体制を強化しております。

## c. 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役並びに社外監査役は会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。なお、会社従業員の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置として、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額を法令が定める最低責任限度額としております。

## d. 役員等責任賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は、当社及び当社子会社の取締役等であり、すべての被保険者について、その保険料を全額当社が負担しております。当該保険契約の内容の概要は、被保険者である対象役員が、その職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により保険会社が補填するものであり、1年毎に契約更新しております。

なお、当該保険契約では、補填する額について限度額を設けること等により、役員等の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置を講じております。

## e. 取締役の定数

取締役の定数は3名以上8名以内とする旨を定款で定めております。

## f. 取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議については、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

## g. 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款で定めております。

## h. 株主総会決議事項を取締役会で決議できる事項

## イ. 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、株主への利益配分を機動的に行うため、取締役会の決議によって、毎年8月31日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対して中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

## ロ. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって任務を怠ったことによる取締役(取締役であったものを含む)及び監査役(監査役であったものを含む)の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

## ハ. 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に迅速に対応し、機動的な資本政策を遂行するためであります。

## 取締役会の活動状況

取締役会における具体的な検討内容は、法令及び定款に定められた事項のほか、経営方針、経営戦略、業績報告・決算報告、重要な組織及び人事体制、コーポレートガバナンス等であります。

また、当事業年度において、当社は取締役会を18回（他に書面決議2回）開催しており、各取締役の出席状況は以下のとおりになります。

役員区分	氏名	開催回数	出席回数
代表取締役	池田 洋人	18回	18回
取締役	富田 知尚	18回	18回
取締役	松本 修士	13回	13回
取締役	高杉 雄介	5回	5回
社外取締役	柴田 幸夫	18回	18回

(注) 高杉雄介氏は、2025年5月29日開催の第12回定時株主総会の終結の時をもって取締役を退任しており、退任までの期間に開催された取締役会の出席状況を記載しております。

## (2) 【役員の状況】

2026年5月27日（有価証券報告書提出日）現在の当社の役員の状況は、以下のとおりです。

男性7名 女性 名（役員のうち女性の比率 %）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役CEO	池田 洋人	1974年10月6日生	1997年4月 株式会社ハレックス入社 1999年10月 気象予報士取得 2002年5月 株式会社ウェザーライン入社 2003年6月 ヤフー株式会社（現：LINEヤフー株式会社）入社 Yahoo!天気情報プロデューサー 2005年6月 株式会社ありんく入社 取締役COO 2013年3月 当社設立 代表取締役CEO（現任） 2024年5月 株式会社エンバウンド 取締役（現任）	(注)3	815,900
取締役	富田 知尚	1985年1月26日生	2008年4月 株式会社リクルート（現：株式会社リクルートホールディングス）入社 2011年10月 グーグル株式会社（現：グーグル合同会社）入社 2016年10月 株式会社アトモス設立 代表取締役 2017年10月 当社 取締役CSOサービス統括部長 2023年3月 当社 取締役ビジネス開発部長（現任）	(注)3	
取締役	松本 修士	1975年5月29日生	2001年12月 株式会社パソナ入社 2003年8月 ヤフー株式会社（現：LINEヤフー株式会社）入社 2005年9月 株式会社ライブドア入社 2006年9月 株式会社ありんく入社 2008年4月 同社 取締役CTO 2013年3月 当社設立 取締役CTO 2021年4月 株式会社松屋インターナショナル設立 代表取締役就任（現任） 2021年5月 当社 取締役CTO退任 2025年5月 当社 取締役システム開発部長（現任）	(注)3	278,200
取締役	柴田 幸夫	1968年7月24日生	1992年10月 監査法人トーマツ（現：有限責任監査法人トーマツ）入所 2002年5月 UBS証券会社（現：UBS証券株式会社）入社 2005年4月 株式会社ロケーションパリュウ 取締役 2007年8月 オプトエナジー株式会社（現：株式会社フジクラ） 取締役 2010年6月 ジン・パートナーズ株式会社 代表取締役（現任） 2018年5月 株式会社エヌリンクス（現：株式会社コレックホールディングス） 社外取締役 2018年5月 当社 社外監査役 2019年2月 当社 社外取締役（現任） 2020年5月 株式会社エヌリンクス（現：株式会社コレックホールディングス） 社外取締役（現任）	(注)3	1,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役	横小路 喜代隆	1957年11月17日生	1980年4月 キューピー株式会社 入社 2004年7月 同社 人事部労務部長 2005年7月 ケイ・システム株式会社 労務総務受託事業部長 2010年2月 同社 代表取締役社長 2013年2月 キューピー株式会社 執行役員人事本部長 2018年2月 同社 常勤監査役 2023年5月 当社 常勤監査役(現任) 2023年6月 日本シイエムケイ株式会社 社外監査役(現任)	(注)4	
監査役	木村 貴弘	1975年8月11日生	2000年10月 弁護士登録 2000年10月 アンダーソン・毛利法律事務所(現:アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業)入所 2011年9月 木村・多久島・山口法律事務所開設(現任) 2018年11月 当社 社外監査役(現任)	(注)4	
監査役	田嶋 清孝	1974年10月26日生	2000年10月 監査法人太田昭和センチュリー(現:EY新日本有限責任監査法人)入所 2004年4月 公認会計士登録 2022年10月 田嶋清孝公認会計士事務所 所長(現任) 2022年10月 株式会社スタサボ会計ラボ 代表取締役(現任) 2022年10月 株式会社サウンドファン(現:株式会社ミラリスピーカー) 社外監査役(現任) 2023年3月 トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社(現:DFree株式会社) 社外監査役(現任) 2023年4月 株式会社Jiksak Bioengineering 社外監査役(現任) 2023年5月 当社 社外監査役(現任) 2023年7月 株式会社MJOLNIR SPACEWORKS 社外監査役(現任) 2024年8月 カイテク株式会社 社外監査役(現任)	(注)4	
計					1,095,100

- (注) 1. 取締役柴田幸夫は、社外取締役であります。
2. 監査役横小路喜代隆、木村貴弘、田嶋清孝は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、2025年5月29日開催の定時株主総会終結の時から、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、2023年5月24日開催の定時株主総会終結の時から、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。

2026年5月28日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「取締役4名選任の件」を提案しており、当該決議が承認可決されますと、当社の役員の状況及びその任期は、以下のとおりとなる予定です。

なお、役員の役職等については、当該定時株主総会の直後に開催が予定される取締役会の決議事項の内容（役職等）を含めて記載しています。

男性7名 女性 名（役員のうち女性の比率 %）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役会長	池田 洋人	1974年10月6日生	1997年4月 株式会社ハレックス入社 1999年10月 気象予報士取得 2002年5月 株式会社ウェザーライン入社 2003年6月 ヤフー株式会社（現：LINEヤフー株式会社）入社 Yahoo!天気情報プロデューサー 2005年6月 株式会社ありんく入社 取締役COO 2013年3月 当社設立 代表取締役CEO 2024年5月 株式会社エンバウンド 取締役（現任） 2026年5月 当社 代表取締役会長（就任予定）	(注)3	815,900
代表取締役社長	松本 修士	1975年5月29日生	2001年12月 株式会社パソナ入社 2003年8月 ヤフー株式会社（現：LINEヤフー株式会社）入社 2005年9月 株式会社ライブドア入社 2006年9月 株式会社ありんく入社 2008年4月 同社 取締役CTO 2013年3月 当社設立 取締役CTO 2021年4月 株式会社松屋インターナショナル設立 代表取締役就任（現任） 2021年5月 当社 取締役CTO退任 2025年5月 当社 取締役システム開発部長 2026年5月 当社 代表取締役社長（就任予定）	(注)3	278,200
取締役	富田 知尚	1985年1月26日生	2008年4月 株式会社リクルート（現：株式会社リクルートホールディングス）入社 2011年10月 グーグル株式会社（現：グーグル合同会社）入社 2016年10月 株式会社アトモス設立 代表取締役 2017年10月 当社 取締役CSOサービス統括部長 2023年3月 当社 取締役ビジネス開発部長（現任）	(注)3	
取締役	柴田 幸夫	1968年7月24日生	1992年10月 監査法人トーマツ（現：有限責任監査法人トーマツ）入所 2002年5月 UBS証券会社（現：UBS証券株式会社）入社 2005年4月 株式会社ロケーションバリュー 取締役 2007年8月 オプトエナジー株式会社（現：株式会社フジクラ） 取締役 2010年6月 ジン・パートナーズ株式会社 代表取締役（現任） 2018年5月 株式会社エヌリンクス（現：株式会社コレックホールディングス） 社外取締役 2018年5月 当社 社外監査役 2019年2月 当社 社外取締役（現任） 2020年5月 株式会社エヌリンクス（現：株式会社コレックホールディングス） 社外取締役（現任）	(注)3	1,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
-----	----	------	----	----	--------------

常勤監査役	横小路 喜代隆	1957年11月17日生	1980年4月 キューピー株式会社 入社 2004年7月 同社 人事部労務部長 2005年7月 ケイ・システム株式会社 労務総務受託事業部長 2010年2月 同社 代表取締役社長 2013年2月 キューピー株式会社 執行役員人事本部長 2018年2月 同社 常勤監査役 2023年5月 当社 常勤監査役(現任) 2023年6月 日本シイエムケイ株式会社 社外監査役(現任)	(注)4	
監査役	木村 貴弘	1975年8月11日生	2000年10月 弁護士登録 2000年10月 アンダーソン・毛利法律事務所(現:アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業)入所 2011年9月 木村・多久島・山口法律事務所開設(現任) 2018年11月 当社 社外監査役(現任)	(注)4	
監査役	田嶋 清孝	1974年10月26日生	2000年10月 監査法人太田昭和センチュリー(現:EY新日本有限責任監査法人)入所 2004年4月 公認会計士登録 2022年10月 田嶋清孝公認会計士事務所 所長(現任) 2022年10月 株式会社スタサポ会計ラボ 代表取締役(現任) 2022年10月 株式会社サウンドファン(現:株式会社ミラリスピーカー) 社外監査役(現任) 2023年3月 トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社(現:DFree株式会社) 社外監査役(現任) 2023年4月 株式会社Jiksak Bioengineering 社外監査役(現任) 2023年5月 当社 社外監査役(現任) 2023年7月 株式会社MJOLNIR SPACEWORKS 社外監査役(現任) 2024年8月 カイテク株式会社 社外監査役(現任)	(注)4	
計					1,095,100

- (注) 1. 取締役柴田幸夫は、社外取締役であります。
2. 監査役横小路喜代隆、木村貴弘、田嶋清孝は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、2026年5月28日開催の定時株主総会終結の時から、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、2023年5月24日開催の定時株主総会終結の時から、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。

## 社外役員の状況

本書提出日現在、当社は社外取締役1名、社外監査役3名をそれぞれ選任しております。

当社グループは、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要課題と位置づけており、社外取締役及び社外監査役を選任し、独立した立場から監督及び監査を十分に行える体制を整備し、経営監視機能の強化に努めております。

社外取締役柴田幸夫は、経営者及び公認会計士としての豊富な経験から経営戦略をはじめとした会社経営に関する助言・提言を期待し、社外取締役として選任しております。同氏と当社グループとの間に人的関係、資本的關係または取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役横小路喜代隆は、上場企業における管理部門としての長年の経験と幅広い見識に加え、上場企業における常勤監査役としての経験も有し、当社の経営に対し客観的な見地から適切な監督を期待し、社外監査役として選任しております。なお、同氏と当社グループとの間に人的関係、資本的關係または取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役木村貴弘は、弁護士として企業法務に精通し、その専門家としての豊富な経験、法律に関する高い見識等を有していることから、社外監査役として選任しております。なお、同氏と当社グループとの間に人的関係、資本的關係または取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役田嶋清孝は、公認会計士として財務・会計に関する専門的な知識と経験を有し、その知識と経験を当社の監査体制への反映を期待し、社外監査役として選任しております。なお、同氏と当社グループとの間に人的関係、資本的關係または取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役又は社外監査役が提出会社の企業統治において果たす機能及び役割に関しては、コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立的立場からの経営監視の機能が重要と考えており、社外取締役による取締役会の監督機能、社外監査役による独立した立場からの監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制となっております。

また、当社グループでは社外役員を選任するための独立性に関する基準、又は方針として特段の定めはありませんが、東京証券取引所における独立役員に関する判断基準を参考のうえ、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役及び社外監査役を選任しております。

## 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役及び社外監査役は、取締役会に出席しており、内部監査及び会計監査人の報告を受け監督又は監査をしております。また、会計監査人から監査計画の説明を受け、定期的な会合を持ち、監査上の重要論点や重要な発見事項等について意見交換を行っております。

社外監査役は、監査役会に出席し、常勤監査役から内部監査の状況、重要な会議の内容について報告を受ける等、常勤監査役との意思疎通を図って連携しております。また、社外取締役は、必要に応じて監査役会にオブザーバーとして出席しております。

## (3) 【監査の状況】

## 内部監査及び監査役監査の状況

## a. 監査役監査の状況

## イ. 監査役監査の組織、人員及び手続

当社の監査役会の体制は、常勤監査役1名、非常勤監査役2名の計3名であります。常勤監査役は、取締役会その他重要な会議体への出席、業務の調査等を通じて取締役の業務の監査を行っております。また、監査役は監査役会を開催し、監査役間での情報共有を行っております。

なお、社外監査役である田嶋清孝氏は、公認会計士として財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

## ロ. 最近事業年度における監査役及び監査役会の活動状況

監査役会は原則として月に1度開催されております。監査役会では、監査報告の作成、常勤の監査役の選定及び解職、並びに監査の方針、業務及び財産の状況の調査の方法その他の監査役の職務の執行に関する事項の決定のほか、主な会議の付議事項、決裁事項及び対外発表事項に関する報告の受領等を行っております。

常勤監査役は、業務監査として、担当取締役等と随時意見交換し、状況把握に努め、必要に応じて提言、助言を行う等の活動を行っております。

監査役の横小路喜代隆、木村貴弘の2名は、当事業年度開催の監査役会19回の全て、田嶋清孝は監査役会19回のうち18回出席しております。

## b. 内部監査の状況

当社グループは会社規模が比較的小さく、独立した内部監査部門を設けておりませんが、監査・報告の独立性を確保したうえで、代表取締役が取締役及び執行役員4名を内部監査担当者として任命し、相互に内部監査を実施しております。各機関・機能の相互連携によりコーポレート・ガバナンス機能が有効に機能すると判断し、現状の企業統治の体制を採用しております。内部監査担当者は、年間内部監査計画を策定し、被監査部門である各部門に対して改善事項の通知と改善状況のフォローアップを行っております。なお、内部監査の監査結果について取締役会に報告しております。

## c. 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びに内部統制部門との関係

内部監査担当者、監査役及び会計監査人との連携については、内部監査担当者が行った、社内監査の結果を監査役と適宜協議し会計監査人が行う会計監査結果を踏まえて、内部監査担当者と監査役及び会計監査人とで情報共有がなされ、それぞれが主管とする監査領域に監査結果がフィードバックされ次回監査に活かしていくという連携を行っております。なお、監査結果に関しては、内部監査担当者、監査役及び会計監査人それぞれから代表取締役に報告がなされます。重要な事項に関しては社外取締役・社外監査役に共有された上で、取締役会で協議され各役員から出された意見は適宜内部監査に反映しております。また内部統制に関しては、内部監査担当者が会計監査人と連携を取りながら内部統制の運用・評価を行います。監査役は内部統制状況について内部監査担当者及び会計監査人に報告を求め、監査役会における社外監査役からの意見を、内部監査担当者及び会計監査人にフィードバックを行い内部統制運用に活かしております。

## 会計監査の状況

## a. 監査法人の名称

三優監査法人

## b. 継続監査期間

2024年2月期以降の3年間

## c. 業務を執行した公認会計士

指定社員 業務執行社員 鳥井 仁、井上 道明

## d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士5名、その他6名

## e. 監査法人の選定方針と理由

当社の監査役会は、公益社団法人日本監査役協会が公表している「会計監査人の評価及び選定基準に関する監査役等の実務指針」に基づき、会計監査人の品質管理の状況、独立性及び専門性、監査体制が整備されていること、具体的な監査計画並びに監査報酬が合理的かつ妥当であることを確認し、監査実績などを踏まえたうえで、会計監査人を総合的に評価し、選定について判断しております。

会計監査人の職務の執行に支障がある場合のほか、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定します。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任します。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告します。

## f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、上述会計監査人の選定方針に掲げた基準の適否に加え、日頃の監査活動等を通じ、経営者・経理部門・内部監査担当等とのコミュニケーション、不正リスクへの対応等が適切に行われているかという観点で評価した結果、三優監査法人は会計監査人として適格であると判断しております。

なお、2026年5月28日開催予定の定時株主総会において、新たに当社の会計監査人として監査法人銀河が選任される予定です。同監査法人を選定した理由につきましては、新たな視点での監査が期待できることに加え、同監査法人の品質管理体制、独立性、専門性、監査体制及び監査報酬等を総合的に検討した結果、同監査法人が当社の会計監査人として適任であると判断したためであります。

## 監査報酬の内容等

## a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

提出会社

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	32,000		32,000	
連結子会社				
計	32,000		32,000	

(注) 上記以外に、前連結会計年度の監査に係る追加報酬として、三優監査法人に対して2,670千円支払っております。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

監査報酬については、当社の事業規模や特性に照らして監査計画、監査内容、監査日数等を勘案し、監査公認会計士等により作成及び提出された見積書に基づき、監査役会の同意を得た上で取締役会にて決議しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、当社の監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について妥当と判断したためであります。

## (4) 【役員の報酬等】

## 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社は、当社取締役会決議にて取締役の個人別の報酬決定における判断基準を明確化するため、取締役報酬のルール（以下「報酬ルール」という。）を定めており、その概要は以下のとおりです。

当社の取締役の基本報酬は、固定報酬（業績連動報酬や非金銭報酬はありません。）とし、取締役報酬の内容については、各取締役に求められる役位、職責、在任年数その他会社の業績等を総合的に勘案して決定いたします。

また、当該事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容の決定は社外役員が関与しており、その内容が報酬ルールに沿うものであると取締役会が判断いたしました。

## 会社役員の報酬等についての株主総会の決議による定めに関する事項

取締役の報酬等の額は、2019年8月21日開催の臨時株主総会において、年額400,000千円以内（ただし、使用人兼務取締役の使用人分の給与とは含まない。）と決議いただいております。当該臨時株主総会終結時点の取締役の員数は5名です。

また、上記報酬額とは別枠で、2017年10月2日開催の臨時株主総会において、ストック・オプション報酬として株式会社A L i N Kインターネット第1回新株予約権1,750個を上限として付与する旨決議いただいております。当該臨時株主総会終結時点の取締役の員数は4名です。

監査役の報酬等の額は、2018年5月28日開催の第5回定時株主総会において、年額20,000千円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の監査役の員数は2名です。

## 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	64,945	64,945				4
監査役 (社外監査役を除く。)						
社外取締役	4,560	4,560				1
社外監査役	14,970	14,970				3

(注) 1. 当社には役員退職慰労金制度はありません。

2. 監査役の報酬につきましては、株主総会の決議により定められた報酬総額の上限額の範囲内において、業務分担の状況等を勘案し、監査役における協議により決定しております。

3. 上記には、2025年5月29日開催の第12回定時株主総会の終結の時をもって退任した取締役1名に対する報酬を含んでおります。

## 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額等が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

## 使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

## (5) 【株式の保有状況】

## 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、株式の価値の変動または株式に係る配当によって利益をうけることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式に区分しております。

## 保有株式が純投資目的以外の目的である投資株式

## a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

上場株式を保有していないため、省略しております。

## b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	1	0
非上場株式以外の株式		

## c．特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式はすべて非上場株式であるため、記載しておりません。

## 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2025年3月1日から2026年2月28日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2025年3月1日から2026年2月28日まで)の財務諸表について、三優監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、並びに会計基準等の変更についての的確に対応して連結財務諸表を適正に作成できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入するとともに、必要に応じて監査法人との協議を実施し、その他セミナー等への参加を通じて情報収集を行っております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	743,377	455,389
売掛金及び契約資産	1 146,953	1 186,927
商品	2,728	6,369
貯蔵品	180	2,921
短期貸付金	590,318	1,020,727
その他	22,827	69,835
流動資産合計	1,506,385	1,742,171
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,980	18,138
減価償却累計額	753	2,131
建物及び構築物(純額)	18,226	16,007
機械装置及び運搬具	40,000	40,000
減価償却累計額	30,039	31,699
機械装置及び運搬具(純額)	9,960	8,300
その他	6,839	5,368
減価償却累計額	3,965	3,824
その他(純額)	2,873	1,544
有形固定資産合計	31,060	25,852
無形固定資産		
のれん	217,360	
無形固定資産合計	217,360	
投資その他の資産		
投資有価証券	0	0
敷金及び保証金	40,599	40,671
繰延税金資産	10,119	7,832
その他	29,340	23,958
投資その他の資産合計	80,059	72,461
固定資産合計	328,480	98,314
資産合計	1,834,866	1,840,485

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	26,362	43,208
短期借入金	-	2 300,000
未払法人税等	40,972	2,634
契約負債	16,634	24,330
賞与引当金	2,703	1,295
株主優待引当金	5,443	10,015
ポイント引当金	-	573
その他	65,619	53,472
流動負債合計	157,734	435,529
固定負債		
資産除去債務	15,985	16,266
固定負債合計	15,985	16,266
負債合計	173,720	451,796
純資産の部		
株主資本		
資本金	138,087	138,087
資本剰余金	173,851	173,851
利益剰余金	1,675,655	1,403,198
自己株式	326,582	326,582
株主資本合計	1,661,011	1,388,555
新株予約権	133	133
純資産合計	1,661,145	1,388,689
負債純資産合計	1,834,866	1,840,485

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)		(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)	
売上高	1	888,430	1	1,015,965
売上原価		426,910	2	588,247
売上総利益		461,519		427,717
販売費及び一般管理費	3, 4	418,123	3, 4	522,335
営業利益又は営業損失( )		43,396		94,618
営業外収益				
受取利息		23,606		22,139
不動産賃貸料		5,644		5,082
受取精算金		-		11,014
その他		76		6,185
営業外収益合計		29,327		44,421
営業外費用				
支払利息		-		3,872
不動産賃貸費用		10,289		9,008
その他		207		1
営業外費用合計		10,497		12,882
経常利益又は経常損失( )		62,226		63,079
特別利益				
保険解約返戻金		54,354		-
特別利益合計		54,354		-
特別損失				
本社移転費用		2,519		-
減損損失		-	5	186,345
特別損失合計		2,519		186,345
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )		114,061		249,424
法人税、住民税及び事業税		59,681		20,744
法人税等調整額		2,874		2,287
法人税等合計		56,806		23,031
当期純利益又は当期純損失( )		57,254		272,456
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失( )		57,254		272,456

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
当期純利益又は当期純損失( )	57,254	272,456
包括利益	57,254	272,456
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	57,254	272,456

## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	138,087	173,304	1,618,400	338,455	1,591,337
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益			57,254		57,254
自己株式の処分		546		11,873	12,420
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		546	57,254	11,873	69,674
当期末残高	138,087	173,851	1,675,655	326,582	1,661,011

	新株予約権	純資産合計
当期首残高	133	1,591,471
当期変動額		
親会社株主に帰属する当期純利益		57,254
自己株式の処分		12,420
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		
当期変動額合計		69,674
当期末残高	133	1,661,145

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	138,087	173,851	1,675,655	326,582	1,661,011
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純損失( )			272,456		272,456
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	272,456	-	272,456
当期末残高	138,087	173,851	1,403,198	326,582	1,388,555

	新株予約権	純資産合計
当期首残高	133	1,661,145
当期変動額		
親会社株主に帰属する当期純損失( )		272,456
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	-	-
当期変動額合計	-	272,456
当期末残高	133	1,388,689

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	114,061	249,424
減価償却費	8,649	4,211
減損損失	-	186,345
のれん償却額	26,800	33,680
受取利息及び受取配当金	23,606	22,139
受取精算金	-	11,014
支払利息	-	3,872
売上債権及び契約資産の増減額( は増加)	15,554	39,974
長期前払費用の増減額( は増加)	41,023	280
仕入債務の増減額( は減少)	3,474	16,846
未払又は未収消費税等の増減額	78,223	61,199
賞与引当金の増減額( は減少)	303	1,407
株主優待引当金の増減額( は減少)	1,280	4,572
ポイント引当金の増減額( は減少)	-	573
その他	5,406	32,651
小計	271,168	102,127
利息及び配当金の受取額	23,606	22,139
利息の支払額	-	4,294
法人税等の支払額	39,493	73,672
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>255,281</b>	<b>157,955</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期貸付金の純増減額( は増加)	99,444	430,409
有形固定資産の取得による支出	789	1,667
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 205,656	-
事業譲受による支出	3 13,500	-
敷金及び保証金の差入による支出	33,284	6,209
敷金及び保証金の回収による収入	-	5,687
その他	2,208	1,514
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>350,467</b>	<b>431,084</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	-	300,000
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>-</b>	<b>300,000</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	202	1,051
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	95,388	287,987
現金及び現金同等物の期首残高	838,766	743,377
現金及び現金同等物の期末残高	1 743,377	1 455,389

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数

1社

連結子会社の名称

株式会社エンバウンド

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

2024年5月31日をみなし取得日として連結子会社化した株式会社エンバウンドは、前連結会計年度において、2月末日に決算期を変更しております。この決算期変更に伴い、前連結会計年度においては、2024年6月1日から2025年2月28日までの9ヶ月間の損益を連結しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

商品 個別法

貯蔵品 先入先出法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、建物及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 5年～15年

機械装置及び運搬具 17年

その他 3年～5年

投資不動産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 9年

(3) 重要な引当金の計上基準

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

株主優待引当金

期末日を基準日とする株主優待制度の支出に充てるため、支出見込額を計上しております。

ポイント引当金

顧客に付与したポイントの将来の使用による費用の発生に備えるため、将来使用されると見込まれる額を計上しております。

#### (4) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループの顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

##### （tenki.jp事業）

当社グループは主な事業として、日本気象協会との共同事業である天気予報専門メディア「tenki.jp」等の運営を行っており、主な収益は各ページに掲載される広告収入となっております。

サービスについては、アドネットワークを駆使した運用型広告のようにサービスが一時点で完了する契約と枠売りやタイアップ広告等の純広告のように一定期間にわたりサービスを提供する契約があり、これらにかかるサービスの提供について履行義務を識別しております。

履行義務は、サービスが一時点で完了する契約の場合には、主に広告が広告媒体に表示された時点でその履行義務が充足されると判断し、同時点で収益を認識しております。また、一定期間にわたりサービスを提供する契約の場合には、契約で定められた期間にわたり広告を掲示する義務を負っており、時の経過につれて充足されるため、当該契約期間に応じて均等按分し収益を認識しております。

なお、約束された対価は、履行義務の充足時点から概ね3ヶ月で支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

##### （IPプロデュース事業）

IPプロデュース事業においては、温泉地ごとに設定している「温泉むすめ」の独自のグッズをその温泉地の小売店、ホテル売店等へ卸売販売しており、履行義務はグッズの提供であります。当該履行義務は、出荷時から当該グッズの支配が移転されるまでの期間が通常の期間であるため、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、一時点で充足される履行義務として出荷時に収益を認識しております。なお、取引の対価は主に前受金として受領しております。

また、温泉地等において「温泉むすめ」の声優によるイベントの企画・運営を行っております。当該イベントの制作及び企画・運営等を、温泉地等のクライアントから受託する場合と当社グループが主催する場合がありますが、いずれもイベント終了時に履行義務が充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。

さらには、「温泉むすめ」のコミュニティを運営しており、コミュニティ参加者から月単位でサポート費を受受しております。履行義務は、顧客との契約期間にわたり充足されるため、当該期間にわたり収益を認識しております。

##### （太陽光コンサルティング事業）

太陽光発電による電力を発電事業者に供給した時点で履行義務を充足したと判断し、当該時点で収益を認識しております。

##### （その他の事業）

ダイナミックプライシング事業においては、PoC（実証実験）としてレンタルスペースの運営を行っており、顧客との契約に基づき一定期間にわたってレンタルスペースを賃貸するサービスを提供しております。履行義務は、顧客との契約期間にわたり充足されるため、当該期間にわたり収益を認識しております。

#### (5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年～7年間の定額法により償却しております。

#### (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクシカ負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

(有形固定資産及びのれんの評価)

1. 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
有形固定資産及びのれんの減損損失	千円	186,345千円

2. 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算定方法

前連結会計年度に株式会社エンパウンドの買収により発生したのれんは、当該子会社の事業展開により期待される将来の超過収益力であり、取得原価と被取得企業の識別可能な資産及び負債の企業結合日時点の時価との差額で計上し、のれんの評価における重要な会計上の見積りに用いた主要な仮定は、商品の販売金額、同社が新たに開発するアプリによる収益額などであります。

当連結会計年度においては、同社の事業推進の過程において商品の販売やイベント収入等、「推し活」市場における潜在的な需要が当初の想定以上に大きいことが明らかになりました。

これを踏まえ、当社グループとしては、アプリ単体での収益化を優先するのではなく、ユーザー基盤の拡大を優先し、当該アプリを無料で展開することで接点を最大化し、グッズ・イベント等を含めた事業全体での収益最大化を図る方針へ転換いたしました。すなわち、短期的なアプリ課金収益ではなく、中長期的な顧客価値の最大化を重視した収益モデルへの転換であります。

こうした戦略転換により、同社に対する投資価値は、当初の事業計画に織り込んでいたアプリ課金収益の獲得を前提とした収支見通しとは異なるものとなったことから、のれんの簿価を全額減損処理し、減損損失として176,820千円計上しております。

また、これに併せて、株式会社エンパウンドの有形固定資産の減損損失72千円を計上しております。

このほか、当社のダイナミックプライシング事業は、事業基盤のさらなる強化と市場における競争力向上を図るため、当初計画を上回るペースで新規出店を進めておりましたが、この積極的な事業展開に伴う先行投資コストの増加が、短期的な収益性を押し下げる要因となりました。

こうしたことから、当該事業において減損の兆候が認められたことにより将来の回収可能性を検討した結果、のれんの簿価を全額減損処理し、減損損失として6,860千円を、建物及び構築物の減損損失として841千円を、有形固定資産のその他の減損損失として1,750千円をそれぞれ計上しております。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号2022年10月28日)及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日)を当連結会計年度の期首から適用しております。これによる連結財務諸表への影響はありません。

(未適用の会計基準等)

(リースに関する会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日)等

1. 概要

企業会計基準委員会において、日本基準を国際的に整合性のあるものとする取組みの一環として、借手の全てのリースについて資産及び負債を認識するリースに関する会計基準の開発に向けて、国際的な会計基準を踏まえた検討が行われ、基本的な方針として、IFRS第16号の単一の会計処理モデルを基礎とするものの、IFRS第16号の全ての定めを採り入れるのではなく、主要な定めのみを採り入れることにより、簡素で利便性が高く、かつ、IFRS第16号の定めを個別財務諸表に用いても、基本的に修正が不要となることを目指したリース会計基準等が公表されました。

借手の会計処理として、借手のリースの費用配分の方法については、IFRS第16号と同様に、リースがファイナンス・リースであるかオペレーティング・リースであるかにかかわらず、全てのリースについて使用権資産に係

る減価償却費及びリース負債に係る利息相当額を計上する単一の会計処理モデルが適用されます。

## 2. 適用予定日

2029年2月期の期首から適用します。

## 3. 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり  
ます。

### (後発事象に関する会計基準等)

- ・「後発事象に関する会計基準」(企業会計基準第41号 2026年1月9日)
- ・「後発事象に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第35号 2026年1月9日)

## 1. 概要

「後発事象に関する会計基準」等は、後発事象の定義、会計処理及び開示等を取り扱う包括的な会計基準を設定することを優先的な課題とし、日本公認会計士協会 監査・保証基準委員会 監査基準報告書560実務指針第1号「後発事象に関する監査上の取扱い」で示されている会計に関する内容を原則として踏襲して企業会計基準委員会に移管することを基本的な方針として、表現の見直し及び後発事象の評価期間の整理を行うとともに、財務諸表の公表の承認に関する注記を新たに求める等、後発事象に関する会計処理及び開示について定めたものであります。

## 2. 適用予定日

2029年2月期の期首から適用します。

### (表示方法の変更)

#### (連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において「投資その他の資産」の「その他」に含めておりました「敷金及び保証金」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた69,940千円は、「敷金及び保証金」40,599千円、「その他」29,340千円として組み替えております。

## (連結貸借対照表関係)

- 1 売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権及び契約資産の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
売掛金	135,497千円	176,602千円
契約資産	11,455千円	10,325千円

- 2 当社グループにおいては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。

当連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
当座貸越極度額	300,000千円	500,000千円
借入実行残高	千円	300,000千円
差引額	300,000千円	200,000千円

## (連結損益計算書関係)

- 1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載しております。

- 2 棚卸資産の帳簿価額の切下げ額

期末棚卸高は収益性の低下による簿価切下げ後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
	千円	3,030千円

- 3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
広告宣伝費	45,900千円	33,457千円
役員報酬	94,293 "	93,055 "
のれん償却額	26,800 "	33,680 "
減価償却費	4,801 "	1,367 "
株主優待引当金繰入額	5,443 "	10,015 "

- 4 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
	6,000千円	60,466千円

- 5 減損損失

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

セグメント名	資産の種類	減損損失
IPプロデュース事業	有形固定資産その他	72千円
	のれん	176,820 "
その他の事業	建物及び構築物	841 "
	有形固定資産その他	1,750 "
	のれん	6,860 "

(2) 資産のグルーピングの方法

当社グループは、減損損失の算定にあたり、主として事業セグメントを基礎とした資産のグルーピングを行っております。

(3) 減損損失を認識するに至った経緯及び回収可能価額の算定方法

当社グループのIPプロデュース事業を行っている連結子会社の株式会社エンバウンドにおいては、当初の事業計画に織り込んでいたアプリ課金収益の獲得を前提とした収支見通しが異なるものとなったことから、減損の兆候が認められることとなりました。これを受けて、同社に対するのれんの簿価を全額減損処理し、減損損失として176,820千円を、同社の有形固定資産の減損損失として72千円をそれぞれ計上しております。

このほか、当社グループのその他の事業に含めているダイナミックプライシング事業において、積極的な事業展開に伴う先行投資コストの増加が短期的な収益性を押し下げる要因となったことから、当該事業において減損の兆候が認められることとなりました。これを受けて将来の回収可能性を検討した結果、のれんの簿価を全額減損処理し、減損損失として6,860千円を、建物及び構築物の減損損失として841千円を、有形固定資産のその他の減損損失として1,750千円をそれぞれ計上しております。

なお、回収可能価額は事業計画に基づく使用価値により測定しており、有形固定資産については備忘価額、のれんについてはゼロと算定しております。

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	2,136,900			2,136,900
合計	2,136,900			2,136,900
自己株式				
普通株式(注)	342,068		12,000	330,068
合計	342,068		12,000	330,068

(注) 普通株式の自己株式数の減少12,000株は、第三者割当による自己株式の処分による減少であります。

## 2. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる 株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	増加	減少	当連結会計 年度末	
提出会社	第2回新株予約権 (2023年3月29日発行)	普通株式					133
	合計						133

## 3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	2,136,900			2,136,900
合計	2,136,900			2,136,900
自己株式				
普通株式(注)	330,068			330,068
合計	330,068			330,068

## 2. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	第2回新株予約権 (2023年3月29日発行)	普通株式					133
合計							133

## 3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
現金及び預金	743,377千円	455,389千円
現金及び現金同等物	743,377千円	455,389千円

- 2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

株式の取得により新たに株式会社エンバウンドを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は、次のとおりであります。

流動資産	39,275千円
のれん	235,760千円
流動負債	25,035千円
株式の取得価額	250,000千円
自己株式の処分	12,420千円
現金及び現金同等物	31,923千円
差引：取得のための支出	205,656千円

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

該当事項はありません。

- 3 現金及び現金同等物を対価とする事業の譲受けに係る資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

事業譲受により増加した資産及び負債の内訳は、次のとおりであります。

固定資産	5,099千円
のれん	8,400千円
事業の譲受価額	13,500千円
現金及び現金同等物	千円
差引：事業譲受による支出	13,500千円

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
1年内	29,331千円	29,331千円
1年超	56,218 "	26,887 "
合計	85,550千円	56,218千円

(注) 中途解約不能な不動産賃貸借契約における契約期間内の地代家賃を記載しております。

(金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業計画に照らして必要な資金を調達しており、一時的な余資は普通預金で保有しております。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は非上場株式であり、発行会社の信用リスクに晒されております。

短期貸付金は、太陽光発電設備の取得費用であります。取得時に将来売り戻す契約を締結しているため、「収益認識に関する会計基準の適用指針第69項」を適用し金融取引として会計処理をしております。売り戻し契約又は太陽光発電設備から得られる売電収入により、投資額の回収が可能であるため、リスクは限定的であります。

短期借入金は、主に運転資金の調達を目的としたものであり、金利の変動リスク及び流動性リスクにさらされております。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、与信管理規程に従い、営業債権について、当社のコーポレート部が所管となり、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。投資有価証券については、定期的に発行体の財務状況等を把握し、適切に表示しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、一部外貨建ての普通預金を保有しておりますが、取引規模が非常に僅少であり、残高も少額なため為替の変動リスクを重要なものと認識しておりません。

短期借入金については金利の変動リスクに晒されておりますが、定期的に市場の金利状況を把握しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、当社コーポレート部が所管となり、適時に資金繰計画を作成及び更新するとともに、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

短期貸付金については、太陽光発電設備の保有額が投資方針に基づいた水準を保っているか、また、売電収入が当初の想定どおり得られているかを定期的に確認しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより当該価額が変動することがあります。

## (5) 信用リスクの集中

当期の連結決算日現在における営業債権のうち67.4%が特定の大口顧客に対するものであります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

「現金及び預金」「売掛金」「短期貸付金」「買掛金」「短期借入金」については、現金であること及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

前連結会計年度(2025年2月28日)

(注1) 市場価格のない株式等の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度(千円)
非上場株式	0

当連結会計年度(2026年2月28日)

(注1) 市場価格のない株式等の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度(千円)
非上場株式	0

(注2) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2025年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	743,377			
売掛金	135,497			
短期貸付金	590,318			
合計	1,469,193			

当連結会計年度(2026年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	455,389			
売掛金	176,602			
短期貸付金	1,020,727			
合計	1,652,719			

(注3) 短期借入金等の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2025年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2026年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	300,000					
合計	300,000					

## 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第1回新株予約権	第2回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 2名 当社従業員 6名	当社取締役 2名 当社従業員 4名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 105,000株	普通株式 133,900株
付与日	2017年10月19日	2023年3月29日
権利確定条件	「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。	「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。
対象勤務期間	期間の定めはありません。	期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2019年10月20日 至 2027年9月30日	自 2023年3月29日 至 2033年3月28日

(注) 1. 株式数に換算して記載しております。

なお、第1回新株予約権につきましては、2019年8月21日付の株式分割(普通株式1株につき60株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

2. 付与対象者の区分及び人数は、当該新株予約権付与時の区分及び人数に基づいております。

## (2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2026年2月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

## ストック・オプションの数

	第1回新株予約権	第2回新株予約権
権利確定前(株)		
当連結会計年度期首		
付与		
失効		
権利確定		
未確定残		
権利確定後(株)		
当連結会計年度期首	67,800	133,900
権利確定		
権利行使		
失効	1,800	
未行使残	66,000	133,900

(注) 株式数に換算して記載しております。

なお、第1回新株予約権につきましては、2019年8月21日付の株式分割(普通株式1株につき60株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

## 単価情報

	第1回新株予約権	第2回新株予約権
権利行使価格(注) (円)	159	1,019
行使時平均株価 (円)		
付与日における公正な評価単価 (円)		1

(注) 株式数に換算して記載しております。

なお、第1回新株予約権につきましては、2019年8月21日付の株式分割(普通株式1株につき60株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

## 3. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しています。

## 4. ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

## (1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額

55,770千円

## (2) 当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

千円

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
<b>繰延税金資産</b>		
税務上の繰越欠損金(注)2	19,936千円	33,204千円
未払事業税	2,680 "	643 "
ソフトウェア	5,550 "	24,182 "
投資有価証券評価損	765 "	788 "
資産除去債務	6,517 "	5,127 "
その他	1,915 "	4,973 "
繰延税金資産小計	37,365千円	68,919千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注)2	19,936 "	33,204 "
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引 当額	"	20,705 "
評価性引当額小計(注)1	19,936 "	53,909 "
繰延税金資産合計	17,429千円	15,010千円
<b>繰延税金負債</b>		
長期前払費用	2,449千円	2,521千円
資産除去債務に対応する除去費用	4,860 "	4,656 "
繰延税金負債合計	7,309千円	7,178千円
繰延税金資産純額	10,119千円	7,832千円

(注) 1. 評価性引当額が33,973千円増加しております。この増加の主な内容は、当社及び連結子会社において将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額20,705千円を認識したこと、および連結子会社における税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額13,268千円を追加的に認識したことに伴うものであります。

## 2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2025年2月28日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)				2,504		17,431	19,936千円
評価性引当額				2,504		17,431	19,936 "
繰延税金資産							

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度(2026年2月28日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)			2,577			30,626	33,204千円
評価性引当額			2,577			30,626	33,204 "
繰延税金資産							

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
法定実効税率 (調整)	30.6%	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.4%	
住民税均等割	0.4%	
株主優待引当金	1.4%	
のれん償却額	6.8%	
子会社株式取得関連費用	6.7%	
税額控除	5.1%	
評価性引当額の増減	6.5%	
その他	0.1%	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	49.8%	

(注) 当連結会計年度は、税金等調整前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。

### 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立し、2026年4月1日以降開始する連結会計年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2027年3月1日以後開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.6%から31.5%に変更し計算しております。

なお、この法定実効税率の変更による影響は軽微であります。

## (資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

当社グループは本社建物の不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## (賃貸等不動産関係)

## (1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社グループでは、資産のリスク分散を図るため、市場として成熟していて比較的価格変動が安定しているアメリカ合衆国のハワイ州において、投資のための賃貸不動産を有しております。

## (2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	21,763	14,772
	期中増減額	6,991	5,326
	期末残高	14,772	9,445
期末時価		91,822	92,613

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 前連結会計年度の投資不動産の主な減少は、減価償却によるものであります。

3. 期末の時価は、ハワイ州が公表している固定資産税評価額を勘案して算定しております。

また、投資不動産に関する損益は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
投資不動産		
不動産賃貸料	5,644	5,082
不動産賃貸費用	10,289	9,008
差額	4,645	3,925
その他(売却損益等)		

## (収益認識関係)

## 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

## 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4. 会計方針に関する事項（4）重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

## 3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

## (1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	前連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	149,325	135,497
契約資産	10,734	11,455
契約負債	13,835	16,634

(単位：千円)

	当連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	135,497	176,602
契約資産	11,455	10,325
契約負債	16,634	24,330

契約負債は、履行義務の充足前に対価を受領しているものです。

また、過去の期間に充足（又は部分的に充足）した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益はありません。

## (2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「tenki.jp事業」「IPプロデュース事業」「太陽光コンサルティング事業」及び「その他の事業」の4つを報告セグメントとしています。

各報告セグメントの事業内容は、以下のとおりであります。

「tenki.jp事業」

一般財団法人日本気象協会との共同事業として天気予報専門メディア「tenki.jp」を運営しております。

「IPプロデュース事業」

地域活性化プロジェクト「温泉むすめ」のコンテンツプロデュースを行っております。

「太陽光コンサルティング事業」

太陽光発電設備のセカンダリー市場において一時的に太陽光発電設備を保有することにより、売電収入を得ております。

「その他の事業」

事業領域の拡大のために新規事業への参入を企図し、ダイナミックプライシング事業を展開しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

太陽光コンサルティング事業は、従来、既存のtenki.jp事業以外の新規事業の一環として「その他の事業」に含めて表示しておりましたが、当社グループの売上高に占める割合が増したため、太陽光コンサルティング事業として新規の報告セグメントとすることに变更いたしました。

なお、前連結会計年度のセグメント情報については変更後の区分により作成しており、「4. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報」の前連結会計年度に記載しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計処理の原則及び手続きに準拠した方法であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

4. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報  
前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1、2	連結財務諸表 計上額 (注) 3
	tenki.jp 事業	IPプロ デュース事 業	太陽光コン サルティン グ事業	その他の 事業	計		
売上高							
広告取引関連	602,746				602,746		602,746
課金取引関連	41,855				41,855		41,855
温泉むすめ		147,191			147,191		147,191
太陽光コンサル ティング事業			70,772		70,772		70,772
ダイナミックブ ライシング事業				24,954	24,954		24,954
その他	910				910		910
外部顧客への売 上高	645,512	147,191	70,772	24,954	888,430		888,430
セグメント間の 内部売上高又は 振替高							
顧客との契約か ら生じる収益	645,512	147,191	70,772	24,954	888,430		888,430
計	645,512	147,191	70,772	24,954	888,430		888,430
セグメント利益 又は損失( )	283,975	75,048	68,253	23,631	253,548	210,152	43,396
セグメント資産	197,767	230,976	614,484	18,439	1,061,667	773,198	1,834,866
その他の項目							
減価償却費	5,807	108	1,660	1,072	8,649		8,649
のれんの償却額		25,260		1,540	26,800		26,800
有形固定資産及 び 無形固定資産の 増加額	17,383	325			17,709		17,709

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 210,152千円は、セグメント間取引消去500千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 210,652千円が含まれております。全社費用は、主に各報告セグメントに帰属しない役員及び管理部門に係る人件費、経費等の一般管理費であります。

2. セグメント資産の調整額773,198千円には、セグメント間取引消去 611千円、各報告セグメントに配分していない全社資産773,809千円が含まれております。その主なものは、当社の余剰運用資金(現金及び預金)、投資不動産及び管理部門に係る資産等であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、企業結合による増加額を含んでおりません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1、2	連結財務諸表 計上額 (注)3
	tenki.jp 事業	IPプロ デュース事 業	太陽光コン サルティン グ事業	その他の 事業	計		
売上高							
広告取引関連	502,474				502,474		502,474
課金取引関連	49,852				49,852		49,852
温泉むすめ		286,390			286,390		286,390
太陽光コンサル ティング事業			133,289		133,289		133,289
ダイナミックブ ライシング事業				42,153	42,153		42,153
その他	1,804				1,804		1,804
外部顧客への売 上高	554,131	286,390	133,289	42,153	1,015,965		1,015,965
セグメント間の 内部売上高又は 振替高							
顧客との契約か ら生じる収益	554,131	286,390	133,289	42,153	1,015,965		1,015,965
計	554,131	286,390	133,289	42,153	1,015,965		1,015,965
セグメント利益 又は損失( )	179,959	115,604	129,081	31,521	161,914	256,532	94,618
セグメント資産	196,383	61,868	1,057,095	14,568	1,329,915	510,569	1,840,485
その他の項目							
減価償却費	2,406	144	1,660		4,211		4,211
のれんの償却額		33,680			33,680		33,680
有形固定資産及 び 無形固定資産の 増加額	1,667				1,667		1,667
減損損失		176,892		9,452	186,345		186,345

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 256,532千円は、セグメント間取引消去6,000千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 262,532千円が含まれております。全社費用は、主に各報告セグメントに帰属しない役員及び管理部門に係る人件費、経費等の一般管理費であります。

2. セグメント資産の調整額510,569千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。その主なものは、当社の余剰運用資金(現金及び預金)、投資不動産及び管理部門に係る資産等であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

###### (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
一般財団法人日本気象協会	645,512	tenki.jp事業

(注) 一般財団法人日本気象協会との共同事業であるtenki.jp事業における売上高は、一般財団法人日本気象協会が取りまとめた上で、レベニューシェアとして当社に分配される形となっております。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
一般財団法人日本気象協会	553,763	tenki.jp事業

(注) 一般財団法人日本気象協会との共同事業であるtenki.jp事業における売上高は、一般財団法人日本気象協会が取りまとめた上で、レベニューシェアとして当社に分配される形となっております。

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

(固定資産に係る重要な減損損失)

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

(単位：千円)

	報告セグメント					全社・消去	合計
	tenki.jp 事業	IPプロ デュース事 業	太陽光コン サルティン グ事業	その他の 事業	計		
当期償却額		25,260		1,540	26,800		26,800
当期末残高		210,500		6,860	217,360		217,360

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント					全社・消去	合計
	tenki.jp 事業	IPプロ デュース事 業	太陽光コン サルティン グ事業	その他の 事業	計		
当期償却額		33,680			33,680		33,680
当期末残高							

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

関連当事者との取引

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
1株当たり純資産額	919.30円	768.50円
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失( )	31.73円	150.79円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	30.73円	円

- (注) 1 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。
- 2 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失( )		
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失( )(千円)	57,254	272,456
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失( )(千円)	57,254	272,456
普通株式の期中平均株式数(株)	1,804,531	1,806,832
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	58,730	
(うち新株予約権(株))	(58,730)	( )
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		

- 2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2025年2月28日)	当連結会計年度末 (2026年2月28日)
純資産の部の合計額(千円)	1,661,145	1,388,689
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	133	133
(うち新株予約権(千円))	(133)	(133)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	1,661,011	1,388,555
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	1,806,832	1,806,832

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金		300,000	1.65	
1年以内に返済予定の長期借入金				
1年以内に返済予定のリース債務				
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)				
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)				
その他有利子負債				
合計		300,000		

(注) 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における半期情報等

(累計期間)	中間連結会計期間	当連結会計年度
売上高(千円)	509,926	1,015,965
税金等調整前 中間(当期)純損失( )(千円)	38,126	249,424
親会社株主に帰属する 中間(当期)純損失( )(千円)	57,142	272,456
1株当たり 中間(当期)純損失( )(円)	31.63	150.79

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	736,844	438,992
売掛金及び契約資産	143,149	153,153
貯蔵品	180	2,921
前払費用	12,509	13,993
未収収益		<sup>1</sup> 1,463
未収消費税等		29,443
短期貸付金	590,318	1,020,727
その他	<sup>1</sup> 4,346	<sup>1</sup> 21,538
流動資産合計	1,487,348	1,682,232
固定資産		
有形固定資産		
建物	18,980	18,138
減価償却累計額	753	2,131
建物（純額）	18,226	16,007
機械及び装置	40,000	40,000
減価償却累計額	30,039	31,699
機械及び装置（純額）	9,960	8,300
工具、器具及び備品	6,513	5,115
減価償却累計額	3,857	3,571
工具、器具及び備品（純額）	2,656	1,544
有形固定資産合計	30,843	25,852
無形固定資産		
のれん	6,860	
無形固定資産合計	6,860	
投資その他の資産		
関係会社長期貸付金		<sup>3</sup> 1,818
投資有価証券	0	0
関係会社株式	275,000	0
長期前払費用	14,567	14,512
投資不動産	71,868	71,868
減価償却累計額	57,096	62,423
投資不動産（純額）	14,772	9,445
繰延税金資産	10,119	7,832
敷金及び保証金	40,599	40,671
投資その他の資産合計	355,059	74,280
固定資産合計	392,763	100,133
資産合計	1,880,111	1,782,365

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	13,011	11,259
短期借入金		2 300,000
未払金	16,712	18,987
未払費用	5,625	10,969
未払法人税等	40,807	2,454
未払消費税等	29,214	
契約負債	9,264	11,489
預り金	5,428	10,364
賞与引当金	2,703	1,295
株主優待引当金	5,443	10,015
ポイント引当金		573
流動負債合計	128,211	377,408
固定負債		
資産除去債務	15,985	16,266
固定負債合計	15,985	16,266
負債合計	144,196	393,675
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	138,087	138,087
資本剰余金		
資本準備金	135,087	135,087
その他資本剰余金	38,763	38,763
資本剰余金合計	173,851	173,851
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,750,424	1,403,198
利益剰余金合計	1,750,424	1,403,198
自己株式	326,582	326,582
株主資本合計	1,735,780	1,388,555
新株予約権	133	133
純資産合計	1,735,914	1,388,689
負債純資産合計	1,880,111	1,782,365

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当事業年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
売上高	741,239	729,574
売上原価	319,480	371,986
売上総利益	421,758	357,587
販売費及び一般管理費	2 304,483	2 338,247
営業利益	117,274	19,339
営業外収益		
受取利息	23,591	1 23,531
受取精算金		11,014
業務受託料	1 500	1 6,000
不動産賃貸料	5,644	5,082
その他	57	6,164
営業外収益合計	29,793	51,792
営業外費用		
支払利息		3,872
不動産賃貸費用	10,289	9,008
その他	204	
営業外費用合計	10,494	12,880
経常利益	136,573	58,251
特別利益		
保険解約返戻金	54,354	
特別利益合計	54,354	
特別損失		
減損損失		9,452
関係会社株式評価損		274,999
貸倒引当金繰入額		98,181
本社移転費用	2,264	
特別損失合計	2,264	382,633
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )	188,663	324,382
法人税、住民税及び事業税	59,514	20,555
法人税等調整額	2,874	2,287
法人税等合計	56,640	22,842
当期純利益又は当期純損失( )	132,023	347,225

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	138,087	135,087	38,216	173,304
当期変動額				
当期純利益				
自己株式の処分			546	546
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計			546	546
当期末残高	138,087	135,087	38,763	173,851

	株主資本				新株予約権	純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計		
	その他利益剰余金	利益剰余金合計				
	繰越利益剰余金					
当期首残高	1,618,400	1,618,400	338,455	1,591,337	133	1,591,471
当期変動額						
当期純利益	132,023	132,023		132,023		132,023
自己株式の処分			11,873	12,420		12,420
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	132,023	132,023	11,873	144,443		144,443
当期末残高	1,750,424	1,750,424	326,582	1,735,780	133	1,735,914

当事業年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	138,087	135,087	38,763	173,851
当期変動額				
当期純損失( )				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	138,087	135,087	38,763	173,851

	株主資本				新株予約権	純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計		
	その他利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	1,750,424	1,750,424	326,582	1,735,780	133	1,735,914
当期変動額						
当期純損失( )	347,225	347,225		347,225		347,225
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	347,225	347,225		347,225		347,225
当期末残高	1,403,198	1,403,198	326,582	1,388,555	133	1,388,689

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式  
移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品  
先入先出法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法  
ただし、建物については、定額法によっております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～15年
機械及び装置	17年
工具、器具及び備品	4年～5年

(2) 無形固定資産

定額法  
なお、償却年数は以下のとおりであります。

のれん	5年
-----	----

(3) 投資不動産

定額法  
主な耐用年数 建物 9年

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(2) 株主優待引当金

期末日を基準日とする株主優待制度の支出に充てるため、支出見込額を計上しております。

(3) ポイント引当金

顧客に付与したポイントの将来の使用による費用の発生に備えるため、将来使用されると見込まれる額を計上しております。

(4) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(tenki.jp事業)

当社は主な事業として、日本気象協会との共同事業である天気予報専門メディア「tenki.jp」等の運営を行っており、主な収益は各ページに掲載される広告収入となっております。

サービスについては、アドネットワークを駆使した運用型広告のようにサービスが一時点で完了する契約と枠売りやタイアップ広告等の純広告のように一定期間にわたりサービスを提供する契約があり、これらにかかるサービスの提供について履行義務を識別しております。

履行義務は、サービスが一時点で完了する契約の場合には、主に広告が広告媒体に表示された時点でその履行義務が充足されると判断し、同時点で収益を認識しております。また、一定期間にわたりサービスを提供する契約の場合

には、契約で定められた期間にわたり広告を掲示する義務を負っており、時の経過につれて充足されるため、当該契約期間に応じて均等按分し収益を認識しております。

なお、約束された対価は、履行義務の充足時点から概ね3ヶ月で支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

(太陽光コンサルティング事業)

太陽光発電による電力を発電事業者に供給した時点で履行義務を充足したと判断し、当該時点で収益を認識しております。

(その他の事業)

ダイナミックプライシング事業においては、PoC(実証実験)としてレンタルスペースの運営を行っており、顧客との契約に基づき一定期間にわたってレンタルスペースを賃貸するサービスを提供しております。履行義務は、顧客との契約期間にわたり充足されるため、当該期間にわたり収益を認識しております。

(重要な会計上の見積り)

(関係会社株式及び関係会社貸付金の評価)

1. 当事業年度の財務諸表に計上した金額

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)
関係会社株式	275,000	0
関係会社株式評価損		274,999
関係会社長期貸付金		100,000
貸倒引当金		98,181

2. 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額の算定方法

前事業年度に株式会社エンバウムの買収により発生した関係会社株式であります。商品の販売拡大、同社が新たに開発するアプリによる収益獲得を目指しておりましたが、当事業年度においては、同社の事業推進の過程において商品の販売やイベント収入等、「推し活」市場における潜在的な需要が当初の想定以上に大きいことが明らかとなりました。

これを踏まえ、当社グループとしては、現時点ではアプリ単体での収益化よりも当該アプリを無料展開することでユーザー基盤の拡大を優先し、グッズ・イベント等を含めた事業全体での収益向上を図る方針といたしました。これは、短期的なアプリ課金収益ではなく、中長期的な顧客価値(LTV)の最大化を重視した収益モデルへの転換であります。

こうした戦略転換により、当初の事業計画に織り込んでいたアプリ課金収益を前提とした収支見通しとは異なるものとなった結果、当該子会社の実質価額がマイナスまで下落したことから、関係会社株式評価損274,999千円を計上しております。

また、同社の将来の事業計画に基づき関係会社貸付金の回収可能性について再検討した結果、不確実な要素があるため同社の債務超過額まで引当するものとし貸倒引当金98,181千円を計上しております。

なお、貸借対照表の関係会社長期貸付金1,818千円は、貸付金から貸倒引当金を控除した残額を計上しております。

(2) 重要な会計上の見積りに用いた主要な仮定

関係会社株式の実質価額が著しく低下した場合における回復可能性の検討及び関係会社貸付金の回収可能性の検討においては、将来の事業計画を基礎として評価しております。

当該評価における重要な会計上の見積りに用いた主要な仮定は、商品の販売金額、同社が新たに開発するアプリによる収益額などであります。

3. 翌事業年度の財務諸表に与える影響

貸倒引当金の見積りに当たっては、入手可能な見積りを基に慎重に検討のうえ計上しておりますが、将来における当該子会社の財政状態の変化や事業計画等の見直しが必要となった場合、関係会社貸付金に対する貸倒引当金の追加計上が必要となり、翌事業年度の財務諸表に影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号2022年10月28日）、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号2022年10月28日）及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日）を当事業年度の期首から適用しております。これによる財務諸表への影響はありません。

（表示方法の変更）

（貸借対照表関係）

前事業年度において「投資その他の資産」の「その他」に含めておりました「敷金及び保証金」は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた40,599千円は、「敷金及び保証金」として組み替えております。

（損益計算書関係）

前事業年度において「営業外収益」の「その他」に含めておりました「業務受託料」は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた557千円は、「業務受託料」500千円、「その他」57千円として組み替えております。

## (貸借対照表関係)

## 1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（貸借対照表に別掲しているものを除く）

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
短期金銭債権	611千円	1,929千円

## 2. 当座貸越契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。

事業年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
当座貸越極度額	300,000千円	500,000千円
借入実行残高	千円	300,000千円
差引額	300,000千円	200,000千円

## 3. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の金額

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
関係会社長期貸付金	千円	98,181千円

## (損益計算書関係)

## 1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当事業年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
営業取引以外の取引による取引高	500千円	7,463千円

2. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度20%、当事業年度13%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度80%、当事業年度87%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当事業年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
役員報酬	87,858千円	84,475千円
給料手当	33,459 "	46,356 "
広告宣伝費	45,668 "	23,889 "
支払報酬料	40,062 "	40,639 "
減価償却費	4,693 "	1,223 "
株主優待引当金繰入額	5,443 "	10,015 "

## (有価証券関係)

子会社株式は、市場価格のない株式等のため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)
子会社株式	275,000	0
計	275,000	0

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
繰延税金資産		
未払事業税	2,680千円	643千円
ソフトウェア	5,550 "	9,392 "
投資有価証券評価損	765 "	788 "
資産除去債務	6,517 "	5,127 "
貸倒引当金	"	30,946 "
関係会社株式評価損	"	86,679 "
その他	1,915 "	4,973 "
繰延税金資産小計	17,429千円	138,552千円
評価性引当額	千円	123,542千円
繰延税金資産合計	17,429千円	15,010千円
繰延税金負債		
長期前払費用	2,449千円	2,521千円
資産除去債務に対応する除去費用	4,860 "	4,656 "
繰延税金負債計	7,309千円	7,178千円
繰延税金資産の純額	10,119千円	7,832千円

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、注記を省略しております。

当事業年度は、税引前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立し、2026年4月1日以降開始する事業年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2027年3月1日以後開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.6%から31.5%に変更し計算しております。

なお、この法定実効税率の変更による影響は軽微であります。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に記載の項目のうち、「tenki.jp事業」、「太陽光コンサルティング事業」及び「その他の事業」に関する事項と同一であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	18,980		841 (841)	18,138	2,131	1,377	16,007
機械及び装置	40,000			40,000	31,699	1,660	8,300
工具、器具及び備品	6,513	1,667	3,065 (1,750)	5,115	3,571	1,029	1,544
有形固定資産計	65,494	1,667	3,907 (2,592)	63,254	37,402	4,066	25,852
無形固定資産							
のれん	8,400		6,860 (6,860)	1,540	1,540		
無形固定資産計	8,400		6,860 (6,860)	1,540	1,540		
投資その他の資産							
長期前払費用	14,567	1,012	1,067	14,512			14,512
投資不動産	71,868			71,868	62,423	5,326	9,445
敷金及び保証金	40,599	5,759	5,687	40,671			40,671

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

工具、器具及び備品	システム開発用のパソコンの購入	1,667千円
長期前払費用	貸会議室スペース契約時の火災保険料契約	1,012千円
敷金及び保証金	貸会議室スペース契約時の差入敷金保証金	5,759千円

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

工具、器具及び備品	従業員利用パソコンの廃棄	1,315千円
敷金及び保証金	旧オフィス敷金精算	5,687千円

なお、当期減少額のうち( )内は内書きで減損損失の計上額であります。

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	2,703	1,295	2,703		1,295
株主優待引当金	5,443	10,015	5,443		10,015
ポイント引当金		573			573
貸倒引当金		98,181			98,181

(注) 貸倒引当金の当期増加額は、関係会社長期貸付金に対するものであります。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内
基準日	毎年2月末日
剰余金の配当の基準日	毎年8月31日 毎事業年度末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 <a href="https://www.alink.ne.jp/">https://www.alink.ne.jp/</a>
株主に対する特典	毎年8月末日及び2月末日現在の株主名簿に記載又は記録された株主様を対象に、保有数に応じたオリジナルクオカードを贈呈いたします。併せて、長期保有株主には保有期間に応じて追加贈呈いたします。  【8月末基準日】 (1) 1単元(100株)以上2単元(200株)未満 クオカード 1,000円分 (2) 2単元(200株)以上3単元(300株)未満 クオカード 2,000円分 (3) 3単元(300株)以上 クオカード 3,000円  【2月末基準日】 保有期間1年未満 (1) 1単元(100株)以上2単元(200株)未満 クオカード 1,000円分 (2) 2単元(200株)以上3単元(300株)未満 クオカード 2,000円分 (3) 3単元(300株)以上 クオカード 3,000円  保有期間1年以上 (1) 1単元(100株)以上2単元(200株)未満 クオカード 1,000円分 クオカード(温泉むすめデザイン) 1,000円分 (2) 2単元(200株)以上3単元(300株)未満 クオカード 2,000円分 クオカード(温泉むすめデザイン) 1,000円分×2枚 (3) 3単元(300株)以上 クオカード 3,000円 クオカード(温泉むすめデザイン) 1,000円分×3枚 保有期間1年以上とは、毎年2月末日を基準日として、毎年2月末日及び8月末日を基準日とする株主名簿に、同一株主番号で連続3回以上記載されていることといたします。なお、2026年2月末日を基準日とする株主優待より適用となります。

(注) 当社の単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第12期(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)2025年5月30日 関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

2025年5月30日 関東財務局長に提出。

#### (3) 半期報告書及び確認書

第13期中(自 2025年3月1日 至 2025年8月31日)2025年10月14日 関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

2025年5月30日 関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号(代表取締役の異動)の規定に基づく臨時報告書

2026年4月27日 関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4(会計監査人の異動)の規定に基づく臨時報告書

2026年4月27日 関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2026年5月27日

株式会社ALINKインターネット  
取締役会 御中

三優監査法人

東京事務所

指定社員  
業務執行社員

公認会計士 鳥井 仁

指定社員  
業務執行社員

公認会計士 井上 道明

### < 連結財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ALINKインターネットの2025年3月1日から2026年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ALINKインターネット及び連結子会社の2026年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

運用型広告に関する売上高の実在性の検討	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社は、一般財団法人日本気象協会（以下「日本気象協会」という。）との共同事業として天気予報専門メディア「tenki.jp」等の運営を行っており、当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている売上高1,015,965千円に対し、【注記事項】（セグメント情報等）4．報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報に記載のとおり、tenki.jp事業に係る売上高は554,131千円であり、売上高の54%を構成しており金額的に重要な割合を占めている。このうち、アドネットワークを駆使した運用型広告に関する売上高が全体の80%以上を占めている。</p> <p>また、【注記事項】（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4．会計方針に関する事項（4）重要な収益及び費用の計上基準に記載のとおり、運用型広告に関する売上高は、広告が広告媒体に表示された時点で収益を認識している。</p> <p>会社は、売上高成長率及び売上高営業利益率を重要な経営指標と捉えており、売上高は、経営者及び財務諸表利用者にとって極めて重要な指標である。特に、運用型広告に関する売上高は会社の主要な収入源であって業績に与える影響は重要であり、当該売上高を過大に計上するリスクがあるため、その収益認識についてより慎重な監査上の検討を行う必要がある。</p> <p>以上より、当監査法人は、運用型広告に関する売上高の実在性の検討が監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、運用型広告に関する売上高の実在性の検討にあたり、主に以下の監査手続を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．内部統制の評価 当該売上プロセスに係る内部統制の整備及び運用状況を評価した。</li> <li>2．実証手続 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本気象協会との「tenki.jp」の運営に関する業務提携契約の内容及び条件を理解するため、契約書の閲覧を行った。</li> <li>・運用型広告に関する売上取引について、売上計上の根拠となる根拠証憑と突合した。</li> <li>・各月に計上される運用型広告に関する売上について、日本気象協会との間で定められたレベニューシェアの割合に応じた金額であることを確かめるとともに、日本気象協会からの入金状況を検証した。</li> <li>・日本気象協会に対する売掛金残高について、残高確認手続ないしアドネットワーク業者に対する売上取引の計上根拠となる根拠証憑と全件突合を実施した。</li> <li>・期末日後の売上高のマイナス処理について、発生の有無及び内容を確認した。</li> </ul> </li> </ol>

株式会社エンバウンドに係るのれんの評価の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>【注記事項】（重要な会計上の見積り）に記載されているとおり、前連結会計年度に株式会社エンバウンド（以下「エンバウンド」という。）の買収により発生したのれんは、当該子会社の事業展開により期待される将来の超過収益力であり、取得原価と被取得企業の識別可能な資産及び負債の企業結合日時点の時価との差額で計上し、のれんの評価における重要な会計上の見積りに用いた主要な仮定は、商品の販売金額、同社が新たに開発するアプリによる収益額などである。</p> <p>当連結会計年度において決定された戦略転換により、同社に対する投資価値は、当初の事業計画に織り込んでいたアプリ課金収益の獲得を前提とした収支見通しとは異なるものとなったことから、会社はのれんの期末簿価を全額減損処理し、減損損失として176,820千円計上した。</p> <p>当該のれん簿価や同減損損失は金額的重要性が高く、のれんの評価において基礎となる事業計画の重要な仮定には経営者の主観や判断が含まれ、不確実性を伴うことから、当監査法人は、当該のれんの評価の妥当性を監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、エンバウンドに係るのれんの評価の妥当性を検討するにあたり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前連結会計年度の事業計画と当連結会計年度の実績を比較検討した。</li> <li>・戦略転換の内容について、会社及びエンバウンドの経営者へ質問を行い、減損の兆候が適切に把握されていることを検討した。</li> <li>・翌連結会計年度以降の事業計画における重要な仮定のうち商品の販売金額については、過去実績からの推移を分析することにより評価した。同社が新たに開発するアプリによる収益額については、課金収益見込金額、その発生見込時期等を会社及びエンバウンドの経営者に質問することにより評価した。</li> <li>・のれんの未償却残高を計算し、のれんの減損損失の計上額の正確性を検討した。</li> </ul>

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

- 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

## < 内部統制監査 >

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社A L i N Kインターネットの2026年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社A L i N Kインターネットが2026年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。

- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## < 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、当連結会計年度の会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2026年5月27日

株式会社A L i N Kインターネット  
取締役会 御中

三優監査法人

東京事務所

指定社員  
業務執行社員

公認会計士 鳥井 仁

指定社員  
業務執行社員

公認会計士 井上 道明

### <財務諸表監査>

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社A L i N Kインターネットの2025年3月1日から2026年2月28日までの第13期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社A L i N Kインターネットの2026年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

## 運用型広告に関する売上高の実在性の検討

連結財務諸表に対する監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項「運用型広告に関する売上高の実在性の検討」と実質的に同一内容であるため、記載を省略している。

## 株式会社エンバウンドに対する投融資の評価の妥当性

監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>財務諸表の【注記事項】（重要な会計上の見積り）に記載されているとおり、当事業年度における株式会社エンバウンド（以下「エンバウンド」という。）事業の戦略転換により、当初の事業計画に織り込んでいたアプリ課金収益を前提とした収支見通しとは異なるものとなったこと、当該子会社の実質価額がマイナスまで下落していることから会社は関係会社株式評価損274,999千円を計上した。</p> <p>また、会社は同社の将来の事業計画に基づき関係会社貸付金の回収可能性について再検討した結果、不確実な要素があるため同社の債務超過額まで引当するものとし貸倒引当金98,181千円を計上した。</p> <p>当該関係会社株式評価損および貸倒引当金には金額的な重要性があり、それら評価にかかる将来事業計画の見積りには、経営者の主観や判断が含まれ、不確実性を伴うことから、当監査法人はエンバウンドに対する投融資の評価の妥当性を監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、エンバウンドに対する投融資の評価の妥当性を検討するにあたり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前事業年度の事業計画と当事業年度の実績を比較検討した。</li> <li>・戦略転換の内容について、会社及びエンバウンドの経営者へ質問を行った。</li> <li>・翌事業年度以降の事業計画における重要な仮定のうち商品の販売金額については、過去実績からの推移を分析することにより評価した。同社が新たに開発するアプリによる収益額については、課金収益見込金額、その発生見込時期等を会社及びエンバウンドの経営者に質問することにより評価した。</li> <li>・会社による株式の評価の妥当性を検討するため、帳簿価額と実質価額を比較した。</li> <li>・会社による貸付金の評価の妥当性を検討するため、債務超過相当額と貸倒引当金との整合性を確認した。</li> </ul>

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を

行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。